

ICT 活用による病氣療養児や障害のある人の学びの支援

藤井慶博(秋田大学大学院教育学研究科)

目 次

第Ⅰ章 病気療養等外出機会が少ない児童生徒等に対するオンラインを活用した お祭り体験・交流プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1節 秋田かんとうまつり体験・交流プロジェクト・・・・・・・・・・	1
第2節 横手の雪まつり「かまくら」体験・交流プロジェクト・・・・・・・・	7
第Ⅱ章 ICT 活用による病気療養児の社会経験・生涯学習支援・・・・・・・・・・	22
第1節 秋田市大森山動物園オンラインガイドツアー・・・・・・・・・・	22
第2節 男鹿水族館 GA0 オンラインガイドツアー・・・・・・・・・・	28
第Ⅲ章 ICT 活用による障害者の生涯学習推進の取組・・・・・・・・・・	33
第Ⅳ章 病気の子どもの教育支援フォーラム特別企画「ICT を活用した学習支援コーナー」・・	49
第Ⅴ章 総合考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51

第Ⅰ章 病気療養等外出機会が少ない児童生徒等に対するオンラインを活用したお祭り体験・交流プロジェクト

第1節 秋田かんとまつり体験・交流プロジェクト

1 実施計画

(1)趣旨

デジタルで誰一人取り残されない共生社会を目指し、病気療養や障害等により外出機会が少ない状況にある方々に対し、ICT活用による全国のお祭り体験や関係者との交流を通してワクワクするモデル作りを目指す。今回、秋田竿燈まつりをテーマにした体験・交流イベントを行い、参加者がワクワクドキドキする内容の検証を技術面、コンテンツ面から行う。

(2)主催者・協力者

<主催者>

- ・秋田大学学生・教員ボランティア（秋田県秋田市手形学園町 1-1）
- ・秋田大学竿燈会（秋田県秋田市手形学園町 1-1）
- ・一般財団法人ニューメディア開発協会（東京都中央区日本橋小舟町 3-2）

<協力者>

- ・秋田市竿燈会（秋田県秋田市大町 1 丁目 3-30）
- ・秋田竿燈まつり実行委員会（秋田県秋田市山王 1 丁目 1-1 秋田市観光文化スポーツ部観光振興課）
- ・秋田大学教育文化学部附属特別支援学校（秋田県秋田市保戸野原の町 13-1）
- ・公益財団法人ベネッセこども基金（東京都多摩市落合 1-34）
- ・秋田市旭北地区コミュニティセンター（秋田県秋田市大町 4 丁目 4-15）

(3)内容

- ①令和6年7月16日（火） 秋田大学竿燈会による秋田大学附属特別支援学校への指導交流会ライブ配信（10:30-12:00、於；秋田大学教育文化学部附属特別支援学校）
- ②令和6年8月4日（日） 秋田大学附属特別支援学校竿燈に密着してのライブ配信・交流（19:00-21:00、於；秋田大学附属特別支援学校及び秋田竿燈まつり会場）
- ③令和6年8月5日（月） 秋田竿燈まつりライブ配信・交流（19:00-21:00、於；秋田竿燈まつり会場）

(4)ライブ配信先

一般財団法人ニューメディア開発協会が支援してきた全国の特別支援学校26校他

(5)本イベントのポイント

- ①自分の仮身であるアバターロボットを竿燈まつり会場に設置し、参加児童生徒が遠隔操作して自分が見たい景色を見ることができるという没入感を味わえるように工夫する。
- ②ICTを活用することにより、一方的な映像配信でなく、祭り関係者と交流できるようにする。

③今回お祭体験・交流プロジェクトに参加いただく方には、参加前に竿燈まつりの歴史などを事前に理解いただく

2 システム

アバターを3機設置し、それぞれ特別支援学校等の児童生徒が操作・会話できるようにした。一般視聴者は3機のアバターを自由に選択視聴できるようにした(図1)。アバターの設置場所は、令和5年の反省から場所を固定せず、通信環境を最優先して柔軟に移動することとした(図2)。

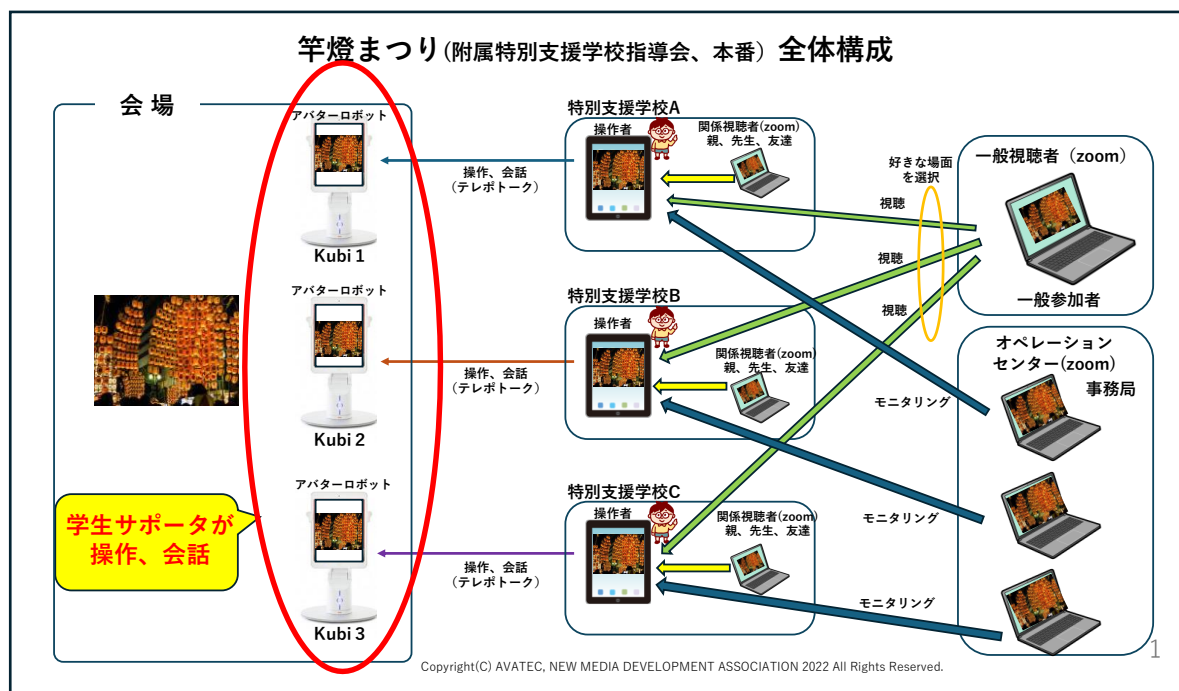


図1 プロジェクトのシステム

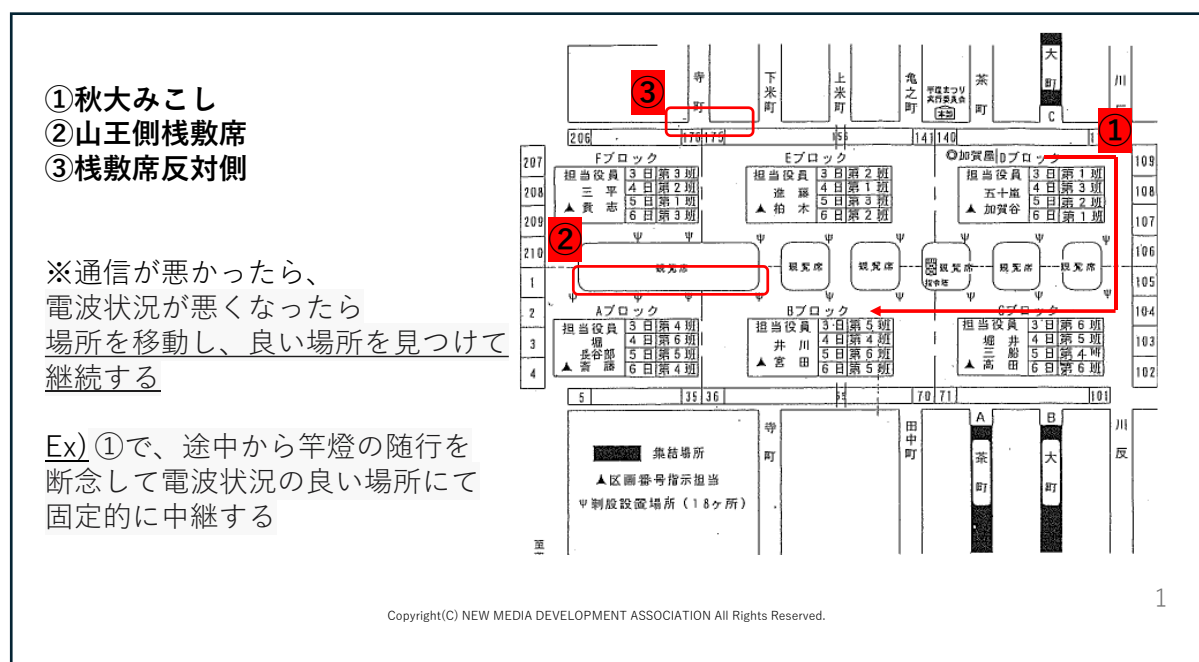


図2 アバターの配置場所

3 実践の様子



秋田大学附属特別支援学校生徒との交流



竿燈祭りボランティアスタッフ



秋田大附属特別支援学校生徒との交流



竿燈祭り会場でのオペレーション



秋田魁新報に掲載(令和6年8月6日)

4 参加者の感想(アンケートより)

a 今回のイベント参加の感想をお聞かせください。

大変良かった 11 、 良かった 7

a のご回答の具体的な内容をお聞かせください。(良かった点、悪かった点、改善点など)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 臨場感溢れる映像を観ることができました。・ 会場にいるような感覚を持つことができました。医療的ケア児者や重症心身障がい児者の方々はもちろん、そのきょうだいや親御さん、みんなとても楽しそうにしていました。・ 感染症の心配、車椅子移動、医療ケア等、人がたくさんいる会場に行くには勇気がいる方も多いです。そのため、こういった機会は本当にありがたかったです。・ 視聴時間が短かったこと、接続状況などにより、アバターを通じた子どもたちのやりとりの様子をくわしく認識することはできませんでしたが、「アバターを通じてこうやってつながれるのか」ということはわかり、可能性を感じました。お祭りの迫力もすごかったです。一視聴者として、楽しませていただきました。ありがとうございました。・ YouTube 等の配信だと定点の場面が多く、瞬時の今ここが見たい、気になるに対応できないことがある。今回はリアルタイムで操作することで即時に見たい、気になるに対応できるのがいいなと思いました。・ 操作者の実際の状況が見ることができ、操作者、まつり参加者が楽しんでいる様子を見ることができた。・ はじめてでしたが、事前操作のご説明などの機会を丁寧に設定いただきまして、安心して参加することができました。ありがとうございました。・ 竿灯が倒れてしまうところ含めて生での臨場感があってよかった・ 事前の準備、当日暑い中での対応、とても丁寧にしてくださってありがとうございました。臨場感があってとても良かったです。よく観えましたし、交流も楽しめました。質問なのですが、操作している時に、返答したり、感動のあまり「うわ～」とか声が出たりすると画面が自分の顔の映像に切り替わるのが（発言者を表示にしていたからだと思いますが・・・）どうしたらよかったのでしょうか。この切り替わりが、次の項目の「没入感」を強くは感じられなかった要因です。自分の顔が見えることで現実に戻ってしまうと申しますか…私が操作方法を熟知していないことが原因なので、そちら様の要因ではないのに申し訳ございません。次の機会のために教えて頂けるとありがたいです。・ 竿燈祭に参加される特別支援学校の生徒さんが元気に立派に話されるのを聞く事ができ、本番では臨場感たっぷり、サポートの方も親切丁寧に対応いただき心から楽しんで素敵な時間な過ごせました。・ 今年は操作者として参加できお祭りの迫力をより体感できとても楽しかったです。また kubi を通じて秋田大学の学生さんや特別支援学校の生徒さん、お祭りのお客様と交流することができて貴重な体験になりました。・ 外出が難しい入院療養中の生徒にとって、疑似外出体験となるこのような取り組みは大変有意義であった。残念ながら、病院の勤務体制や体調面への配慮から夜竿灯を生徒が見ることはできなかったが、中継の様子をビデオ録画したので後日、生徒とともに楽しみたいと考えている。・ 竿燈まつりの臨場感が伝わって来てとても楽しむことができました！
途中、繋がりにくいこともあったが、実際に操作することができとても良かった。その裏で、多大な尽力をされていることを知り、運営してくださっている学生の皆様には感謝しかない。・ 臨場感を感じることができました。しかし「視聴」のみでしたので参加している実感は感じられま |
|---|

せんでした。事前の説明用の動画がわかりやすかったです。

- ・通信が安定して見やすかった。大学生の方と先生がオンラインでやりとりしている様子が合間に挟まったりしたことで、テレビで放映されているような演出に感じた。単に配信するより、コメントーターが挟まることで、興味深く、楽しく見ることができた。
- ・現地での参加が非常に難しい特別支援学校の児童生徒にとってとても貴重な経験となった。途中、電波が悪くなり、操作ができなくなってしまったのがすこし残念でした。

・「良かった点」

ロボットを操作して色々な角度から間近で見ることができ、竿燈やお囃子の迫力が画面越しからでも伝わってきて、操作していた子供が「初めて竿燈見たけど凄く楽しかった、実際に行ったみたい」と言葉が出るほど楽しめました。

「悪かった点」

接続状況があまり良くない時があり、映像が止まってしまったり音声途切れたりする場面が度々ありました。

全体的にレスポンスが遅かったです。事前接続では、参加可否のやり取りで行き違いがあったり、予定時刻過ぎても zoom のアドレスが送られてこなかったりと、レスポンスの遅さに事務局と大学側での情報共有の体制が構築されていない印象を受けました。

余談ですが、申し込みフォームに氏名のカタカナ表記があったはずですが、事前接続時に名前を何度か間違えられたので、個人情報適切に管理して欲しいなと思いました。

「改善点」

本番まで時間が限られているので、事前接続の日程調整は運営側と参加者両方の手間を省く為、アンケート機能を作り効率化を図る。

事前接続日、本番の(最低)前日までに資料のメールが送信されてるかダブルチェックした上で、最終確認のメールを送るようにするなどし、接続をスムーズに行えるようにする。

接続状況があまり良くない時間帯があったので、昨年・今年で通信速度が遅くなる時間帯と場所を分析して、本番中は通信速度を定期的に測り影響の少ない場所に切り替えるなど対策する。

b 今回のイベントの参加で、「イベントを見ている」という感覚に加え、「あたかも自分がそこにいるような没入感」を感じることができましたか？

強く感じた 5 、 感じた 12 、 どちらともいえない 1

c 今後、同様なアバターを使った視聴、参加イベントを開催した場合、参加を希望されますか？

ぜひ参加したい 9 、 参加したい 8 、 どちらとも言えない 2

d 今回のイベント参加を終えて、「秋田竿燈まつり」についてどのように感じられましたか？

該当するものを選択ください。(複数回答可) ”

秋田竿燈まつりに興味を持った 12 、 実際現地で直接見たいと思った 10
アバター利用の魅力がわかった 9 、 秋田県に興味を持った 5

5 学生ボランティアの感想

◎ICT を活用したかわりの多様性を感じることができた。

◎さまざまな子どもたちと少しの時間ではあったが、一緒に楽しむことができてうれしかった。

◎その場になくても、子どもは自分が見たい方向に kubi を自由に動かすことができることで、お祭りの雰囲気を感じることができるととてもすてきだと感じた。

◎事前練習でトラブルの対応の仕方を確認することができていたため、本番であまり迷うことなく対応することができた。

◎子どもたちが喜んでくれたという感想を聞くことができてうれしかった。

◎暑さや通信環境などの課題があった中で、出来る限りリスクを排除し、行うことができた。

◎竿燈まつりに来ることができない子どもたちにも工夫次第では楽しんでもらえることを身をもって体験することができた。

◎前日に通信速度を図り、マップを作成していたため、通信環境が悪くなった時の移動をスムーズに行うことができた。

◎附属の子どもたちと交流することができた。

◎自己紹介などをして、親しみやすく交流することができた。

◎年齢に合わせて交流の仕方を工夫して対応することができた。

○会話が難しい場面での対応などを他の学生の関わりから学ぶことができた。

○通信環境が悪くなってしまったことがあったが、場所を移動したり、Wi-Fi ルーターを変えたりして接続をつなげることができた。

△通信環境があまりよくない時間帯があった。

△参加している方の声が周りの音で聞こえにくく、会話がうまくできないことがあった。

△会話の仕方

△学生サポーターが音声をうまく聞き取ることができなかったときのオペレーションセンターの対応

△学生サポーターが通信環境が良い場所に移動しているときに、オペレーションセンターがどうやってつながるか。

△子供が飽きないような会話の工夫

6 考察

- ・昨年度の経験を踏まえ、まつり会場のうち、比較的観光客が少ない場所を選んでアバターを設置した。結果、通信環境は比較的安定して配信することが出来た。これまで横手のかまくらまつりで低温時の通信機器の動作への影響は経験していたが、今回は高温が通信機器の動作に影響を及ぼすことを経験した。この経験も今後もプロジェクト運営の財産となった。
- ・学生ボランティアの役割としては、アバターオペレーションと全国の子どもたちと会場を繋ぐことにある。交流のスキルアップがプロジェクトの充実に繋がるため、竿燈まつりをはじめ秋田の紹介やコミュニケーションスキルの向上が求められよう。
- ・まつりの休憩時間に、竿燈の差し手に声がけをすることで交流に参加していただくことが出来た。今後は、どのような取組をしているか周囲に理解していただけるよう看板等の設置を検討したい。
- ・竿燈祭りは、参加者と観客双方がいて成り立つものである。観客が交流に参加するというシーンを作ることで、より充実した交流プロジェクトに発展させていきたい。

第2節 横手の雪まつり「かまくら」体験・交流プロジェクト

1 実施計画

(1) 趣旨

デジタルで誰一人取り残されない共生社会を目指し、病気療養や肢体不自由、不登校等により外出機会が少ない状況にある児童生徒に対し、ICT活用による全国のお祭り体験や関係者との交流を通して子供たちがワクワクするモデル作りを目指す。本プロジェクトは、全国に先駆けて、令和5年8月3日・4日に行った「秋田のお祭りライブ配信・交流モデルプロジェクト「秋田竿燈まつり」を皮切りに、令和6年2月の「横手の雪祭り」、令和6年8月の「秋田竿燈まつり」と継続して実施しているものである。今回、「横手のかまくらまつり」をテーマにした体験・交流イベントを行い、参加者である子供たちがワクワクドキドキする内容の検証を技術面、コンテンツ面から行う。

(2) 主催者・協力者

<主催者>

- ・秋田大学学生・教員ボランティア（秋田県秋田市手形学園町1-1）
- ・一般財団法人ニューメディア開発協会（東京都中央区日本橋小舟町3-2）
- ・公益財団法人ベネッセこども基金（東京都多摩市落合1-34）

<協力者>

- ・一般社団法人横手市観光協会（秋田県横手市中央町8番12号）
- ・横手市雪まつり委員会（秋田県横手市中央町8番12号）
- ・かまくら委員会（秋田県横手市中央町8番12号）
- ・秋田県立横手支援学校（秋田県横手市赤坂仁坂105-1）
- ・iPresence株式会社（兵庫県神戸市東灘区向洋町中6丁目9番地）
- ・秋田大学横手分校（秋田県横手市南町13-1）
- ・横手市教育委員会生涯学習課（秋田県横手市南町13-1）
- ・社会福祉法人横手市社会福祉協議会（秋田県横手市卸町5番10号）

(3) 内容

①令和7年1月17日（金）13:30-14:00 かまくらまつりキックオフイベント

- | |
|--|
| (1) オープニング(映像) |
| (2) あいさつ・趣旨説明 |
| (3) 横手市かまくらまつりの歴史・お祭り概要・魅力・作法等について説明(映像・写真等を使いながら横手市観光協会に依頼) |
| (4) 昨年度の交流の様子・参加者からの感想(映像・写真等を使いながらNMDA) |
| (5) かまくら交流会を支えてくださるスタッフから一言ずつ(かまくら委員長、ボランティア学生) |
| (6) 交流タイム(秋田県立横手支援学校中学部による紹介・クイズコーナー) |
| (7) 2/15, 16の見どころと参加のご案内 |

②令和7年2月15日（土）

10:00-11:50 秋田県立横手支援学校「かまくらおもてなし」のライブ配信・交流（於:横手公園）

18:00-20:00 かまくらまつりのライブ配信・交流（於:横手公園）

③令和7年2月16日（日）

13:00-15:00、18:00-20:00 かまくらまつりのライブ配信・交流（於：横手公園）

(4) ライブ配信の案内先

- ・一般財団法人ニューメディア開発協会が支援してきた全国の特別支援学校26校他
- ・秋田県内の障害福祉サービス事業所
- ・その他

(5) 本イベントのポイント

- ①自分の仮身であるアバターロボットをまつり会場に設置し、参加者が遠隔操作して自分が見たい景色を見ることができるといった没入感を味わえるように工夫する。
- ②ICTを活用することにより、一方的な映像配信でなく、まつり関係者と交流できるようにする。
- ③まつりの様子だけでなく、横手支援学校の生徒との交流やまつりを支える方々（観光協会の方やかまくら職人等）の話などにより交流感を味わえるようにする。
- ④地域共生社会の理念に鑑み、地元ボランティアを募り本プロジェクトに参画していただく。

2 システム

タブレットPCを3機設置し、それぞれに特別支援学校等の児童生徒が交流できるようにした。一般視聴者は3機に自由に行き来して視聴出来るようにした。また、「集客用Kubi」と命名した機器をかまぐらの入口周辺に配置し、アバターを広く知っていただくとともに、かまぐらへの集客効果を狙った。

これまではオペレーションセンターは祭り会場近くに設置していたが、通信環境の確保と現地スタッフの負担軽減のため当該センターを遠隔地に設置した(図3)。

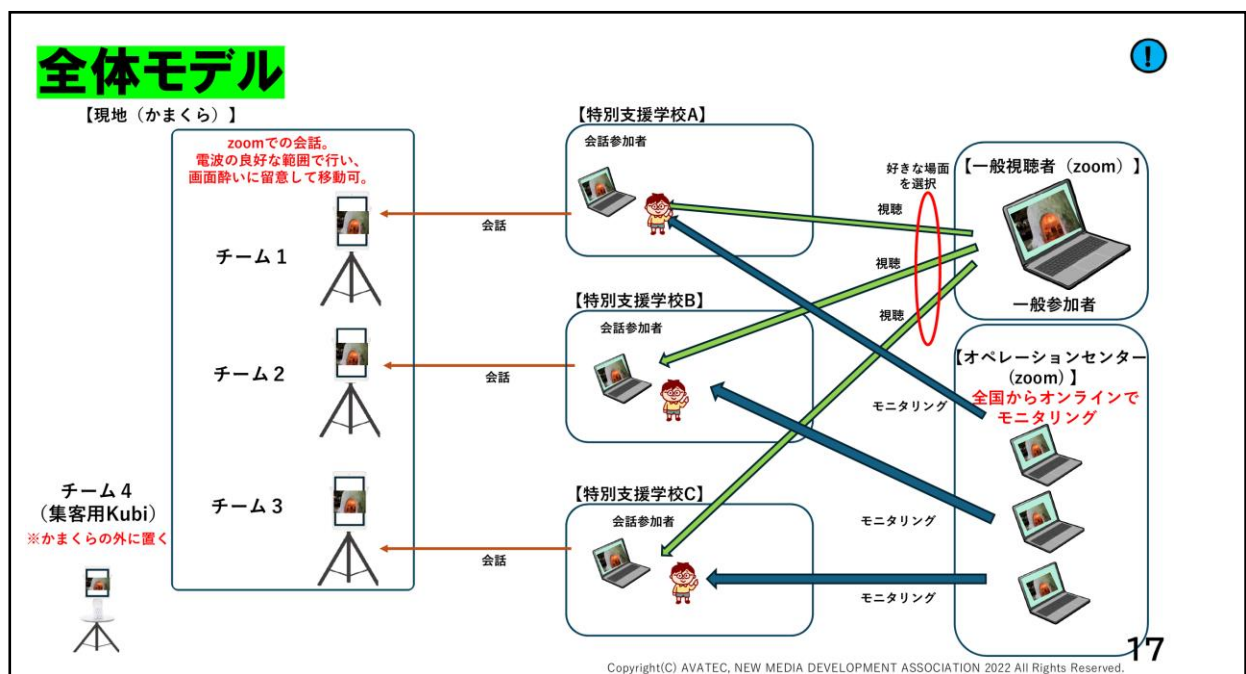


図3 プロジェクトのシステム

3 実践の様子

(1) かまくらまつりキックオフイベント（令和7年1月17日、13:30-14:00）

①内容

- ・かまくらまつりの概要紹介
- ・令和6年度の交流の様子紹介
- ・交流を支える方々からのコメント（かまくら委員長、秋田大学ボランティアチームリーダー）
- ・秋田県立横手支援学校との交流コーナー

(2) 秋田県立横手支援学校によるおもてなし交流（令和7年2月15日（土）、10:00-11:50）

①内容

横手支援学校中学部生徒が、図4のおもてなしカードに則り、全国の参加者と交流を図った。時間は20分1グループとし、4グループ実施した。

 かまくら おもてなし 	
1 しゅし ざぶとん 手指・座布団 マットの消毒	  
2 かまくらに はい 入ってもら	「はいって たんせ」
3 すわってもら	「すわってたんせ」
4 すいじんさま 水神様を おは 拝んでもら	「水神様と一緒に おがんでたんせ」
5 あまざけ もち 甘酒やお餅を ふるま	 「あまえっこ のんでたんせ」  「もちっこ くってたんせ」
6	かいわ たの 会話をしましょう ・かまくらについての説明・横手支援の紹介・お客さんに質問など
7 みやげ わた お土産を渡す	(例)「わたし う 私たちが植えた はなっこの種です。もらってたんせ」
8 みおく お見送りをする	「また きてたんせ」

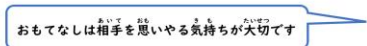

おもてなしは相手を思いやる気持ちが大切です


図4 おもてなしカード



横手支援学校生徒によるおもてなし（写真右から、横手支援学校生徒2人と教員、秋田大学生）

(3) 本プロジェクトがホストとなっておもてなし交流

（令和7年1月15日（土）18:00-20:00、16日13:00-15:00、18:00-20:00（日））

①内容

横手市観光協会から提供いただいたかまくら1基にアバターを入れ、観光客をゲストとしておもてなし交流を実施した。アバターの操作や移動、交流の仲立ちを大学生・高校生ボランティアが行った。また、かまぐらの周辺にアバターを1基設置し、誘客やプロジェクトの紹介などを広く行った。



秋田大学生と高校生ボランティアの対面



プロジェクトスタッフ



アバターを体験する高校生ボランティア



かまくら祭り本番スタート



お客様を招き、ホストとしておもてなし



多くのお客様との交流



かまくら委員長の照井様から直々の解説

4 参加者の感想(アンケートより)

a【全体の評価をご回答ください】

大変良かった 3 、 良かった 9 、 どちらでもない 1

【aの補足として具体的な内容についてのご意見をお聞かせください。】

- ・大きなかまくらや城を見ることができ、秋田の文化を知ることができた
- ・“かまくらがなぜ行われているのか説明や来客と
- ・zoom 参加者のやり取りが興味深かった。”
- ・土曜日ということで利用者さんの参加人数が少なく残念でしたが、とても楽しく参加できました。
- ・夜の実施ということで、昨年同様個人的に参加しましたが、やはり教育活動の一環として児童生徒と参加できるといういなと感じました。
- ・生徒さんがかまくらについて説明してくれて、色々分かりよかった。
- ・雪の中で大変だと思いますが、すごくお城との景色も良かったので、イベント入口からかまくらに入るまで実際に訪れた感覚が見られるととっても良かったと思います。
- ・東京から17歳の娘と現地参加させていただきました。幻想的な景色を見れて、かまくらの中に入

れて、おもてなしをしていただき、娘も大変喜んでおりました。

- ・”ホストやゲストで参加したかったけれど、母が案内を見つけてくれた時には締切日が過ぎていたから、残念だった。
- ・お城の中とか、かまぐらの景色(風景)を見たりしてお散歩してみたかったです。”
- ・地元の生徒の方言がリアルでわくわくした。甘酒？の入れ方など丁寧に説明しながら見るのができて、わかりやすく伝わりやすかった

b【かまぐら入場体験はいかがでしたか？】

大変良かった 6 、 良かった 6 、 どちらでもない 1

【bの補足として「〇〇が楽しかった」「〇〇が驚いた」など具体的なご意見をお聞かせください。】

- ・かまぐらが想像よりも大きかった
- ・かまぐらの中でお餅を焼いていることにびっくりしました。
- ・去年よりもやりとりがスムーズに行え、難しい操作もなかったのととても良かったです。生徒さんの説明は知らない内容もあり勉強になりました。
- ・かまぐらに来られたたくさんの方々と、交流できたのが楽しかったです。海外の方の文化なども教えていただいて、勉強になりました。
- ・中に神棚みたいなものや火鉢のようなものがあり、関心をひいた。
- ・実際にかまぐらに入るような体験ができ、また、土曜日の午前に視聴したが、横手支援学校の生徒さんがかまぐらの由来や作法について説明してくださったので、とてもためになり楽しかった。
- ・特別支援学校の生徒さんが上手に地域のことやかまぐらのことを話してくれ、すごく表情豊かに案内をしてくれてうれしく思いました。横手市を知ることができ郷土教育としてもすごく良かったと感じる。
- ・私が見ている間は中に入りませんでした。
- ・おこげのついたお餅が本当に美味しかったです。
- ・かまぐらの中に水神様がまつられているのを初めて知りました
- ・”かまぐらの中に七輪があつて、甘酒や豆餅が振る舞われる様子に、びっくりしました。
- ・美味しそうで、うらやましかったです。
- ・入ってたんせ・飲んでたんせという方言を知れて、良かったです。”

c【かまぐら入場前後での 「かまぐらの周りの見学」 はいかがでしたか？】

大変良かった 3 、 良かった 9 、 どちらでもない 1

【cの補足として「〇〇が楽しかった」「〇〇が見られた」など具体的なご意見をお聞かせください。】

- ・城を見れた
- ・暗くなっていたので幻想的で綺麗でした！
- ・かまぐら委員長の話をたくさん聞かせていただけたのが良かったです。かまぐらまつりの全体像が見れて雰囲気がより伝わってきました。
- ・途中からなのでやっていたら申し訳ないです。かまぐらの厚みを見たかった。
- ・天候にも恵まれ、昼は実際に外の様子が見られて気持ちの良さや、夜は情景が伝わってきたことがよかった。
- ・きれいな作りと大きさが感じられた。
- ・ライブ感が良かった
- ・かまぐら隊長さんのお話が聞けたのは良かったです。他のかまぐらも見たいです。

・小さなかまぐら映像はわくわくした

d【秋田大生を中心とした現地での交流サポートスタッフはいかがでしたでしょうか？】

大変良かった 6 、 良かった 6 、 どちらもでもない 1

【dの補足として「〇〇が良かった」など具体的なご意見をお聞かせください。】

- ・来客が思っていたより外国の方々と英語で秋田のことを説明されていたのが勉強になりました。親切に丁寧に対応していただきました。
- ・いろいろとサポートいただけて助かりました。
- ・笑顔で臨機応変に対応している様子にとっても好感を持ってました。
- ・その地方の学生さんとのタグは良かったです。学生さんの元気とパワーを感じました。
- ・大学生の皆さんの飾らないコミュニケーションや参加者とのやり取り楽しく拝聴しました。実際の大学生ってこんな感じか〜というのを垣間見れた感じですし、子供たちにとっては少し先の未来が見えるのではないかと思います。学生さんが現場をサポートしている頼もしさ、見ていてとても気持ちよかったです。かまぐらもちろん素敵なのですが、やはりそこに居る人とのライブなコミュニケーションがこのイベントに参加した感であり、思い出に残る体験だと再確認しました（実は私はバタバタしていて、コミュニケーションには参加せず視聴のみだったのですが、それでも大学生の皆さんと参加者の方との掛け合いを聞いて一緒に参加した気持ちになりました。）
- ・明るく、丁寧に説明いただき、ありがとうございました。
- ・寒い中お疲れ様でした
- ・あまり関わる事はなかったけれど、やさしくて丁寧に話してくれたので、わかりやすく楽しかったです。
- ・学生さんの案内コメントがわかりやすくよかった。

e【今回のライブ配信に参加して、実際の秋田横手かまぐら雪まつりに行ってみたいと思われましたか？】

是非とも行きたい 5 、 できれば行きたい 5 、 検討したい 3

f【来年も秋田横手かまぐら雪まつりで今回のようなアバターやZOOMでの視聴を利用したイベントを実施した場合、参加を希望されますか？】

是非とも参加したい 2 、 参加したい 7 、 検討したい 4

【fの補足として「〇〇を見たい」「〇〇がしたい」など具体的なご意見をお聞かせください。】

- ・このようなイベントに初参加だったので視聴のみでしたが交流してみたらより楽しく参加できるように感じました！
- ・アバターロボットと違ってzoomの視聴では、ホスト参加の区別がわかりにくく難しさを感じました。
- ・横手城最上階からの中継も見たいですね。車椅子ユーザーには喜ばれると思います。
- ・“横手出身の上場企業創業者の方が知り合いにいます。」「わが故郷のご支援、ありがとうございます。今週は残念ながら横手におりませんが、今度、横手にいらっしゃるときは、ご案内をしたいと思います。」とのメッセージをいただきました。また来年、現地参加します。”
- ・日中の様子、支援学校生徒が参加している様子を見たい
- ・“車椅子が入れるような、広いかまぐらがあったら、現地に行ってみたいなと思いました。

- ・来年もイベントがあったら、ホストかゲストで参加してみたいです。
- ・母に、甘酒準備してもらって現地の方と乾杯したいです。”

g【日本全国の他の地域でも地域色のあるイベントを実施した場合、参加を希望されますか？】

是非とも参加したい 3 、 参加したい 4 、 検討したい 6

【gの補足として具体的なご希望内容など お聞かせください。】

- ・城巡り
- ・時間や日程によりましが参加してみたいです。
- ・教育活動の一環として参加を検討できるように平日の日中での開催を希望します。
- ・日本もいいですが普段いけない海外のイベントにもこのような形で行けたら世界が広がるなと思いました。
- ・七夕祭りなど
- ・”都合があれば参加したいです。
- ・色んなところに行ってみたいです。”
- ・現地の様子を見ることができると嬉しい

h【その他 ご意見、ご要望がございましたらご記入ください。】

- ・配信のリンクが複数あり、迷いました。ただ、現地から現地の言葉で色々説明してもらって楽しかったです。ありがとうございます
- ・初めての参加で少しどのような流れがわからないところがあったので簡単なタイムスケジュールや内容が表示されるとなありがたいです。(見つけられないだけで表示されていたらすみません m(_ _)m)
- ・いつも様々な企画を考えて実施いただき、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。
- ・配信お疲れ様でした。秋田大学は自分自身の出身校でもあり、後輩達が全国の病弱児に向けた取組に取り組んでいることを誇らしく感じました。
- ・大変お疲れさまでした。今回のような体験型の Zoom 配信は初めてでしたので、良い経験となりました。横手支援学校の生徒さんや、秋田大学の学生さんにとっても良い学習機会となったと思いますし、遠方の参加が難しい方も楽しめる内容だと思いました。
- ・素晴らしいイベントをありがとうございました。
- ・素晴らしいイベントの企画運営、ありがとうございました。
- ・”2日間にわたり、中継してくださり、ありがとうございました。どのチャンネルを見せるのが、より本人にとって、わかりやすい(見やすい)かを探りながら見せていたので、度々の出入り失礼しました。
- ・チャンネル毎の簡単な内容案内があると、チャンネル選択しやすいので有り難いと思いました。初日(15日)のメインチャンネルで、画像が2つあり(かまくら体験画面とお散歩画面)、お散歩画面を見せたいと思いましたが、他のチャンネルとも違ったので、見方がわからずでした。(母より)”

5 秋田県立横手支援学校生徒の感想

【総合的な学習】	横手の雪まつり2025 「かまくらで おもてなし」 2 月 15 日 (土) 名前 高山 北斗
こじんもくひょう 個人目標	かまくら実行委員として、オンラインのおもてなし準備を行う。
そのためにがんばったこと (振り返り)	
	オンラインおもてなしの練習を初めてやったときは、相手に聞こえるように大きな声で話をするのがむずかしかったです。練習してだんだんうまく話せるようになって、本番では笑顔で会話ができました。

【総合的な学習】	横手の雪まつり2025 「かまくらで おもてなし」 2 月 15 日 (土) 名前 伊藤 陸
こじんもくひょう 個人目標	自分から積極的に話題を提供して、お客さんと楽しく会話をする。 常に笑顔でおもてなしをする。
そのためにがんばったこと (振り返り)	
	自分からお話したり、笑顔でお客さんとも楽しく会話したりできました。外国人の方とも英語を使いながらお話ができました。 アバターかまくらでは大きな声でお餅を焼く説明を頑張りました。

【総合的な学習】	横手の雪まつり2025 「かまくらで おもてなし」 2 月 15 日 (土) 名前 佐々木幸太
こじんもくひょう 個人目標	お客さんと会話を続けるようにする。
そのためにがんばったこと (振り返り)	
	観光客へのおもてなしでは、「どこから来ましたか」「秋田県はどうか。」など会話を続けることができました。緊張したけど、フランス、オーストラリア、アメリカ、スコットランド、スペインの人と会話を続けることができました。

【総合的な学習】		横手の雪まつり2025	
「かまくらでおもてなし」			
2 月 15 日 (土) 名前 おだしま たくと			
個人目標	お客さんとえがおではなしをする。		
	おもてなしの やりかたを おぼえて おもてなしをする。		
そのためにがんばったこと（振り返り）			
		おきやくさんに両手で甘酒を渡しました。	
		おきやくさんがよろこんでくれて、とてもうれ	
		しかったです。	
		おきやくさんに聞こえるように大きな声で、	
		「はいつてんせ」と言いました。	

6 秋田大学生ボランティアの感想

工藤 朱莉（秋田大学教育文化学部1年）

私は今回のかまくらボランティアで、ICTを使った支援を支援者側で体験でき、それに加えて地元である秋田県やかまぐらの魅力を知ったり、様々な地域から来た様々な年代の人との交流もしたりできた。

私はzoomで大阪の中学生と、北海道の特別支援学校の先生と中継をつなぎ、かまぐらでのおもてなしをした。カメラに映らない周辺のものやスケール感等が伝わりにくいので、その情報を補うことを意識した。大阪はあまり雪の降らない地域であることもあり、雪囲いや側溝などのポールなどにも興味を持っていた。また方言にも興味をもち、方言トークで盛り上がった。私は県内での方言の違いも実感した。さらに同じ市内でも世代による秋田弁の浸透度の違いにも気づいた。北海道の先生は秋田市出身で、来てくださった方々も秋田県の方で、ここでも方言・地元トークが盛り上がった。そこでは秋田は祭りが多い方だという話にもなった。こういったことも交流があったから知ることができたのだと思う。かまぐらには短い時間の中でも仲良くなることができる不思議な力があるような気がした。

自分の担当の時間以外では、kubi（とその担当の方）と一緒に呼び込みや取り組みの紹介をした。私は海外の方と英語で話す機会もあり、この取り組みはとても大事だねと言ってくだった。もう実践しているところもあるのかもしれないが、このような支援がもっと広がればいいなと思ったし、気持ちを通じた感じがして嬉しかった。もちろん日本の方も特に利用者が見たい方向を向けることに興味をもって下さり、外出が難しくてもICTを使ってこのようなことができることを知ってもらえたと思う。

伊東大樹（秋田大学教職大学院2年）

かまぐら祭交流プロジェクトを終えて大きく2つのことを学んだ。

1点目は、遠隔で参加する方に配慮したコミュニケーションの大切さである。今回、おもてなし用のクイズを作成したのだが、クイズを出題する際に、遠隔で参加している方に見えにくい角度で出題をしてしまった。今回のような交流では、現地から参加される方、遠隔で参加される方など参加方法は様々である。参加される方々全員に楽しんでもらうために、相手の立場に立ったコミュニケーショ

ンの大切さを学んだ。この視点は、教員になった際も生かしていきたい。

2点目は、参加しやすい題材の設定の必要性である。今回参加してくださった方々は、特別支援学校の教員や企業の方が中心であった。一方で、外出が困難な方々の参加が少なかったと感じている。今後、外出が困難な方もそうでない方もICTを活用した交流を楽しんでいただくためには、参加しやすい時間、参加したい題材など、参加者の希望に沿った取り組みが必要であると感じた。

渡部温子（秋田大学教職大学院1年）

11月のフォーラムの際にお声がけいただいたため、前回の竿燈祭りでの経験を生かして、横手かまくら祭りでのコミュニケーションにもチャレンジすることにしました。準備から本番まで、竿燈祭りとの違いを感じながら活動させていただきました。

竿燈祭りと今回のかまくら祭りで異なっている点は、音の環境、機材保護の方法、準備期間、おもてなしの手順、ボランティアの募集方法などが挙げられると思います。特におもてなしの手順に関しては地元の方言や風習を学んで実践したことによって、よりお祭りの雰囲気大切にすることができたと感じております。

また、個人的には、今回初めてリードする立場を任せていただき、大学院の方も多忙な時期ということもあってスケジュール管理やタスクが思うようにいかないこともありましたが、本番は大きなトラブルなく終えることができ、ほっとしております。このプロジェクトをきっかけに、県内に住んでいてもなかなか参加する機会がなかったお祭りに参加することができ、様々な人と協力して活動したり、年齢・出身・国籍様々なお客様と交流したりすることができました。大変貴重な経験をさせていただいたことを感じております。ありがとうございました。

能美遥山（秋田大学国際資源学部3年）

今回、かまくら祭りのボランティアに参加し、横手の伝統文化を伝える貴重な経験を得ました。私はZoomを通じて遠方の方々にかまくら祭りの魅力を紹介するオンラインガイドを担当しました。具体的には、かまくらの作り方や祭りの由来、地域にまつわるエピソードを交えながら説明し、バーチャルでも臨場感を感じてもらえるよう工夫しました。

さらに、現地に来てくださった方々には、かまくら祭りの歴史や地域に根付く伝統について紹介しました。また、かまくらの中に来てくださった方には、豆餅や甘酒を提供しました。昔からの風習や地域の人々の思いを伝え、文化的背景を深く理解してもらえるよう努めました。また、Zoomでかまくら祭りに興味を持ってくれた方々と、現地に足を運んでくれた観光客との交流を促すことにも力を入れました。

そして、外国人観光客との交流を通じて、英語で話すことの抵抗がより減り、地域の魅力を再認識する機会にもなりました。

佐々木四季（教育文化学部1年）

オンライン参加者と現地の観光客をつなぐ役割を担い、伝統行事の魅力を発信するという貴重な経験となった。今回のボランティアでは、今まで触れたことのない機材を使う場面も多く、新しい挑戦だった。初めて扱うものばかりで最初は不安だったが、事前に何度か練習する機会があり、機材の操作には徐々に慣れていった。本番でも特にトラブルなく進行でき、スムーズに交流をサポートできたことは自信につながった。一方で、オンライン交流の難しさも実感した。特に、小学生とのコミュニケーションでは、画面越しでは反応が見えづらく、会話が途切れてしまうこともあった。もっと打ち

合わせを重ねて、話題を用意しておけばよかったと反省している。また、地元の高校生がせっかく協力してくれたのに、自分のことで手一杯になり、あまり話せなかったのも心残りだ。それでも、秋田県の魅力を多くの人に伝えるお手伝いできたことは本当に嬉しかった。オンライン参加者と現地の観光客が楽しそうに交流している姿を見て、「やってよかった」と心から思った。特に外国人観光客が「楽しかった。ありがとう」と言ってくれた時は嬉しかった。自分の行動が人と人をつなげ、地域の良さを広める一助になったことに、やりがいを感じた。今回の経験を通じて、事前準備の大切さや新しいことに挑戦する楽しさを学んだ。

新田結衣（秋田大学教育文化学部1年）

今回ボランティアに参加してみて、デジタル機器の活用性を感じた。私たちは、現場にいる方とzoomの先にいる方との中継ぎとしての役割を担ったが、遠隔でも「顔が見える」ことでコミュニケーションがより円滑になるのだと思った。また、参加者が障害のある方だけでなく、障害者支援を行う方々も多く見られたことから、この取り組みに対する注目度を実感した。

kubiも初めて見たが、動きのスムーズさに驚いた。この機能が学校に通えない子どもたちが授業を受けるために使われていると知り、この利便性の高さがあれば子どもたちも授業を受けやすくなると感じた。さらに、ゲストやホストの方々とたくさん話したり、質問されたことについて高校生ボランティアの方々に聞いたりすることで、豊かな知識をつけることができたため楽しかった。

今回のボランティアを通して、障害児支援の実情を少し知ることができた上に、自分自身も楽しんで取り組むことができたため、とても有意義な時間になったと思う。

大場彩加（秋田大学教育文化学部4年）

今回私はボランティアとしてではなく、運営スタッフ（サブリーダー）として本プロジェクトに参加した。そのため、その立場から今回のかまくらまつりを振り返る。

良かった点から述べる。それは2つある。まずは天気にも恵まれたことだ。かまくらまつり開催の週に寒波が来たこともあり、多くの積雪が見られた。当日は一部雨が降った場面もあったが、初日の昼に雨でかまくらに入ることが叶わなかった昨年よりは良いコンディションであったと言えた。次にボランティアスタッフの共通認識がなされていたことだ。渡部さんを中心に練習会が複数回行われたことによる成果と言えよう。これは本番当日の混乱を減らすことやボランティアスタッフの不安の軽減につながった。

次に改善点を述べる。大きく分けて2つある。1つめは機材管理についてだ。この部分は当日まで変更が多かった。その結果、当日朝混乱が生じてしまった。来年は今回を踏まえ事前に機材を決定することが必要だろう。また、直前の変更の場合は私たちの対応が間に合わないことを想定し、ボランティアスタッフにも情報共有を行うことも一案であろう。2つめは我々マネジメントスタッフの人選である。今回私たちを藤井先生は信頼して選んでくれたのだと思う。個人的にはそれは大変嬉しい。しかし、B4、M1、M2は適切でなかったと思う。なぜなら全員がかまくらまつり直前に発表を控えていたからだ。伊東さん・渡部さんは2/14、私大場は2/11に発表があった。その結果、一番調整をすべき2月前半～直前までが動きづらくなってしまった。来年以降はできれば直前に予定が入っていない人を中心に運営していただきたい。

7 地元高校生ボランティアの感想

秋田県立城南高等学校 2年 生徒

今回このボランティアに参加して、遠隔でかまくらのおもてなしを受けたりしているところを実際に見て、様々な場面での交流の大切さを実感するとともに私も子供たちの交流をサポートできるような人になりたいと改めて感じさせられました。このプロジェクトを行うことで、より子供同士のコミュニケーションを支援するものになっているのかなと感じました。そしてこのボランティアに参加したことで得ることが出来た想いをこれからの進路決定の上で参考にしていきたいと思いました。

小原真歩（秋田県立横手城南高等学校・2年）

かまくらプロジェクトボランティアに参加して、病気などで外に出られない子供に地元のイベントを映像ではあるが、説明して雰囲気を感じ取ってもらうことはいい事だと感じました。

また、国を越えて参加した方もいるようでとても嬉しくなりました。秋田大学の学生さんと支援学校の学生さんが笑顔で楽しそうに説明していたので、見ていた方も自然と笑顔になっていたのかなと思いました。私は将来、人を笑顔にする仕事を目指しているので、このようなボランティアに積極的に参加したいです。”

佐々木伊織（秋田県立平成高等学校・2年）

今回のボランティアでの、交流はとても有意義なものでした。かまくらの良さを知ってもらうのはもちろん、客側だけではなくスタッフ側も体験できるという秋田県民でなければ滅多にできない事を経験できることはその人や私たちにとっても良い事だったと思います。地元のPRもできて良かったです。今後も秋田県民かつ横手市民として地元の良さを知ってもらいたいと思ったため、こういったものに参加できる機会があれば是非参加したいと思いました。今回は貴重な体験ありがとうございました。

佐々木來空（秋田県立平成高等学校・2年）

今回のかまくらボランティアではあまり関わることのない年代や環境の方々と触れ合うことができました。普段生活していてこのような機会は少ないと思うのでボランティアをされていてとても有意義な時間になりました。また、ボランティア活動を通してはじめは何をしただろうかわからなかったけど大学生の方がサポートしてくださったおかげで楽にボランティア活動をすることができ、いろいろな県から来ている人たちと交流して新しい発見が生まれ、考え方が深まったりさまざまな価値観を知る事ができたのでこの経験を活かしてこれからの進路活動を頑張りたいと思いました。このような貴重なボランティア活動に参加させていただき本当にありがとうございました。

秋田県立平成高等学校・1年 生徒

このボランティアに参加して横手市の伝統を知ることができました。今までは伝統であるかまくらに触れる機会がほとんどなかったけど今回で少しでも触れることができました。

このかまくら祭りでは秋田県民の他にも県外の方や、海外の方も来ていたのでかまくら祭りが日本だけではなく外国でも人気な行事だということがわかりました。このかまくら祭りのボランティアでは、若者離れが進んでいる横手市で若者を手伝ってもらうことで横手市にも人が集まる行事があると

いうことを知ってもらふ意図があるんじゃないと思っています。”

秋田県立横手城南高等学校・2年 生徒

夏にあった竿燈祭りで今回と同じようなプロジェクトを行っているのを新聞で見ました。その時そのような活動があるのを知り、自分が大学生になった時に参加したいと思っていました。思いがけず今回、先生から横手のかまくらで病氣療養等のため外出機会が少ない全国の児童生徒等とオンライン交流会をすることを聞きました。残念ながらかまくらの中でのおもてなしなどのサポートは出来ませんが、待機している遠方の子どもと会話をしながら横手城を見せたりかまくらを紹介したりしました。その際に、角度や動かす時の声かけに気をつけて行う大切さを学ぶことが出来ました。

今回、とても緊張しましたが一緒にボランティアを行った秋田大学の先輩方が一つ一つ丁寧に優しく分かりやすく教えていただいたので緊張せず一緒に活動することが出来ました。またこのようなボランティアがあったら積極的に参加したいです。”

柴田梨紗（秋田県立平成高等学校・1年）

今回のボランティアを通して秋田大学のみなさんがやっている事について詳しく知ることができました。フレンドリーに接していたり、見たことの無い機械を使って離れた人々と交流しているのを見てすごいと思いました。私は、ミニかまくらを作っていました。その時に訪れた人々に挨拶をしたり外国人にも挨拶をしたりすることができました。あまり私は人と関わることは好きではないのですが、色んな人々と関わったのが楽しかったいい経験になりました。また来年もあったら参加したいと思える活動でした。

8 考察

- ・かまくらまつり本番の約1か月前に、キックオフイベントを行った。30分間という短い時間ではあったが、本番に参加する団体、おもてなし交流の横手支援学校、ボランティアスタッフ等々のおまつりに向かう意識が醸成される機会として有効であったと考える。
- ・おまつりをテーマとする交流イベントで最も懸念されたのが通信環境である。本プロジェクトの実施に当たり、事前に2度の通信速度測定を行い万全を期した。結果、通信は安定し、滞りなく配信することができた。
- ・参加者のアンケートから、横手支援学校のおもてなしは好評であった。当校は「横手が舞台」を教育方針として掲げて学校教育を進めており、日頃からの教育の成果がおもてなしに結実した成果と考えられる。
- ・まつりには、外国人旅行者が大勢訪れた。今後もこの傾向は続くものと予想される。今回は、かまくら入り口横に下記の英語の看板(図5)を設置したが、交流をテーマとする本プロジェクトでは、日本語以外の言語に対応できる備えが求められる。具体的には、ボランティア学生に外国語の説明をお願いし事前準備してもらふ、または外国語のできるボランティアを募集するといった対応が考えられる。

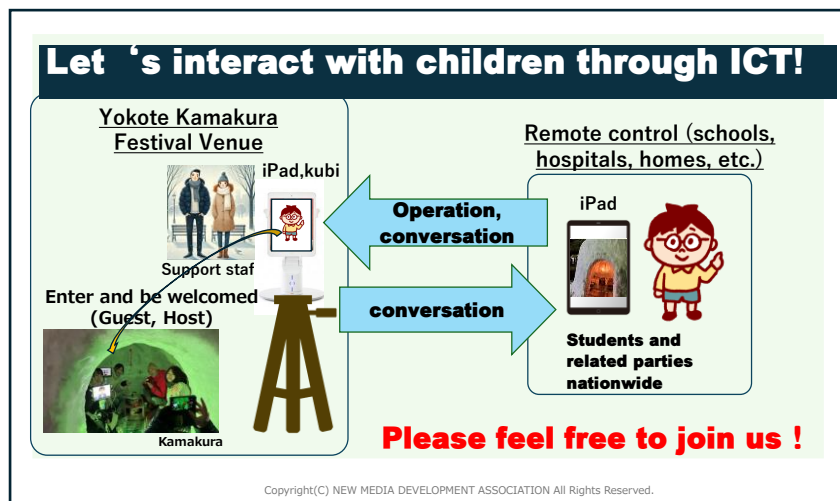


図5 英語の看板

- 本プロジェクトに、地元の高校生ボランティアが16人参加してくれた。まずもって、募集や学校とプロジェクトチームとの連絡調整等にご尽力いただいた横手市社会福祉協議会に感謝したい。高校生ボランティアの参加によりプロジェクトの成功はもとより、生徒の学びにもつながることができたと考えている。今後とも、地元高校生の参画を視野に入れた運営を進めたい。

第Ⅱ章 ICT 活用による病気療養児の社会経験・生涯学習支援

第1節 大森山動物園オンラインガイドツアー

1 実施計画

(1)趣旨

病気療養や障害等により外出機会が少ない状況にある方々に対し、ICT 活用による社会体験や生涯学習の機会を提供し、社会参加の場作りを進める。また、地域にある社会資源の開発・開拓を行う。

(2)主催者・協力者

＜主催者＞

- ・秋田大学病児学習支援ボランティアサークル（秋田県秋田市手形学園町 1-1）

＜協力者＞

- ・秋田市大森山動物園（秋田県秋田市浜田字潟端 154）
- ・一般財団法人秋田県教育関係職員互助会（秋田県秋田県秋田市山王三丁目 1-1）

(3)内容

①令和6年7月11日（木）10:30-11:30

大森山動物園の獣医師が、園内の主な動物の生態について解説し、コーナーごとに質問を受け付けて回答する。

(4)ライブ配信先

- ・秋田県内の特別支援学校及び病弱・身体虚弱特別支援学級等
- ・秋田県内の障害福祉サービス事業所
- ・一般財団法人ニューメディア開発協会が支援してきた全国の特別支援学校26校他

(5)本イベントのポイント

①社会教育施設のガイドツアーにより、学齢児にとっては、教科等の学習や総合的な学習の時間への発展が期待される。また、学校卒業後の方にとっては生涯学習の推進が期待される。

②ICT を活用することにより、一方的な映像配信でなく関係者や参加者同士の交流ができるようにする。

(6) システム

動物園に秋田大学ボランティアスタッフを派遣し、タブレット PC を使って配信した。オペレーションは秋田大学内で筆者が行った。



図6 配布したチラシ

2 実践の様子



キリンについて説明するスタッフ



参加者から多くの質問が寄せられた



現地に派遣した秋田大学学生スタッフ（写真左と中央）

参加者数は、児童生徒・施設利用者 126 人、教職員・学生 100 人、総計 226 人であった。内訳を以下に記す。

【秋田県内の学校】計 3 校 児童生徒 16 人 職員 12 人

【秋田県内の病院・施設】計 5 施設 利用者 45 人 職員 23 人

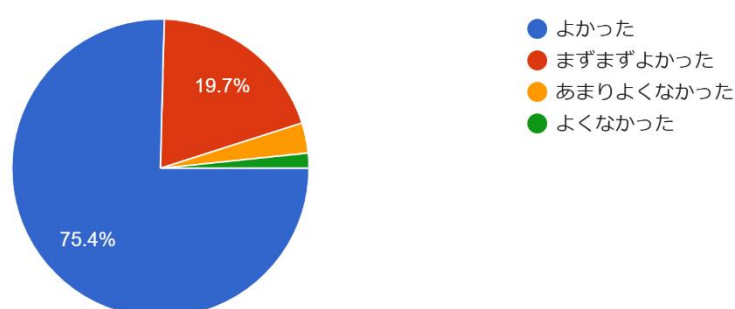
【秋田県外の学校】計 10 校 児童生徒 65 人 職員 56 人

【その他】計 4 施設（大学含） 職員・学生 9 人

3 参加者の感想（アンケートより）

Q1 講座（こうざ）は、よかったですか。

61 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におきします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。

- ・他の動物を知れたから
- ・動物の種類や食べ物などの生態を知ることが出来ました。
- ・動物の生態について知れたため。
- ・動物の特徴を聞いたり、猛獣室の様子を見たりすることができたこと
- ・動物の詳しい生態を深く説明していた。質問にも詳しく答えていた。動物だけでなく飼育員の安全対策もよかった。
- ・猿山
- ・動物園に行かなくても動物を見れたことと、ちょっとした豆知識を教えていただけたから。特にライオンやユキヒョウのご飯のシーンは子供達が釘付けで見っていました。あのような裏側が他の動物も見れるととても良いです。
- ・いろんな動物を見れてよかった
- ・動物園まで行って見れないが、見せることができて楽しんでいたので、経験になった、動物のことを詳しく説明してくれたところが良かった めったにみれないところもみれた
- ・普段、見れないところや聞けないことを知れたから。
- ・なかなか見るができない動物園の様子を学校の中で見ることができたところ。
- ・質問に答えてくれたので、楽しかった。
- ・動物園のバックヤードの様子を見ることができたところがよかったです。実際にライオンが肉を食べている姿を見て「ライオンは野菜を食べないんだ」と児童が驚いていました。
- ・質疑応答で、飼育員さんと会話することができて、児童が非常に喜んでいました。
- ・ライオンのえさをみれてよかったです

- ・カワウソがお魚を食べているところをお話をしてくれたからです。
- ・動物を近くで見られた
- ・動物園に行けない、行ったことのない子どもたちがとても楽しみにしていました。行ったことがあっても見聞きすることのない場所やお話を聞くことができ貴重な機会となりました。
- ・動物園に行ったことがない生徒がいて、初めて見る動物に興味津々でした。飼育員の方からの説明も気付きや発見があり、楽しんでいました。ありがとうございました。
- ・虎やライオンの檻の中を見た事 象、麒麟も見たかった
- ・ミーアキャットのかわいさ
- ・カピバラかわいかった
- ・普段見ることのできない裏側を見ることができ、生徒も楽しむことができていた。
- ・わかりやすかった
- ・バックヤードが興味深かった 動物の詳しい説明が聞けた
- ・しいくいんさんに しつもんできて たのしかった。
- ・ライオンが迫力があってカッコよかった
- ・現場に行かずとも動物園の雰囲気をも十分に味わうことができたし、普段は見られないところも見ることができたから。また、他の学校の児童生徒の皆さんの様子も見れてよい交流の機会になったと思う。
- ・いろんな動物を見て話を聞けたこと。特にトラ、カワウソ、サルがおもしろかった。
- ・ヤマアラシの色が好きでした。 フラミンゴが好きでした。
- ・行ったことがない、または最近行ったことがない生徒が多く、とても興味を持って参加していた。
- ・最後に質問コーナーがあったところ
- ・いろいろな動物を画面をとおして観ることができたこと。
- ・たくさんの動物の説明がわかりやすかったです。
- ・とらやライオンのおりを見たこと
- ・高等部の生徒たちも夢中でした。普段は入れない猛獣舎でのライオンやユキヒョウの様子に見入っていました。生徒の質問にも丁寧に答えていただいたことで、生徒はとてもうれしそうでした。ありがとうございました。
- ・迫力がすごかった特に良かったのは猛獣舎のライオンのお肉食べる姿が面白かったです。
- ・動物のことが分かりやすかった。質問に答えてもらえるので良かった。
- ・現地大森山動物園に行ってもわからないことが[動物]細かく知れることが出来たからです。
- ・具体的でとてもわかりやすかったです
- ・猿がなんびきいるかasherことができてよかった
- ・いろいろな質問に笑顔で対応してくれて嬉しかった
- ・動物の説明がとてもわかりやすかった。
- ・普段接することのない獣医さんからお話を聞けたことがよかったです。
- ・さるがすごいぼるのがじょうずだと分かって良かった
- ・知ってる動物を見れたから
- ・動物園のバックヤードを見る機会はあまりないので、よかった。
- ・普段、動物園に行けない生徒にとって、間近で動物の様子を見たり、質問に答えていただいたりすることができて、楽しそうでした。
- ・ミーアキャットのところが可愛いかった
- ・普段見れない飼育員さんが入る入り口や、トラが生肉を食べてるところを見れたこと
- ・知らない動物がたくさんいたところ
- ・動物園の中でカワウソが1番お気に入りでした

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようところがよくなかったか、教（おし）えてください。3 件の回答

- ・聞き取りにくかった
- ・音質が悪すぎてあんまり聞こえなかった、画質も悪くてよく見えなかった
- ・もう少しゆっくり動物について説明してほしい。

Q3 あなたは、どのような講座（こうざ）があれば参加（さんか）したいですか。教（おし）えてください。42 件の回答

- ・考えてる
- ・生き物(虫)など
- ・動物の生息地について知れるツアー
- ・今回のような動物園、水族館などの施設ツアーをまたやっていただきたい。
- ・水族館
- ・次回もぜひ同じようなツアーがあれば参加したいです。今回児童から、ゾウやキリンも見なかったとの声がありました。広い園内ですが、子供たちの好きな動物たちをまた見れたら嬉しいです。
- ・水族館を見たいです。
- ・いろいろな植物、動物、豊かな自然に触れること
- ・水族館が見たいです
- ・山など、なかなか行けない秋田の観光地を紹介する内容
- ・水族館の講座もあれば参加したいです。
- ・動物園
- ・長い距離を歩くことが難しい児童のため、今回のようにたくさん歩く場所のオンラインツアーがあると嬉しいです。
- ・今回とは違う動物の様子も見てみたいです。 ・次回の GAO も楽しみです。
- ・水族館を今度見たいです
- ・水族館が見たいです。
- ・ゲームや制作等でお互いに交流できたらおもしろいと思いました。
- ・生き物の様子を見たり、おもちゃづくりを見たりしたい
- ・水族館や遊園地や動物園など
- ・飛行場の裏側
- ・アトラクション
- ・動物園の続編 水族館
- ・がおの しろくまを みたいです。
- ・もるもつとを みたいです。
- ・秋田のイベントのみならず、秋田の各学校の様子や学校行事も見たり知れたりできたら嬉しいです。本日はありがとうございました楽しかったです！お疲れ様でした。
- ・もし次も動物園ツアーがあるなら、ゾウの食事シーンとペンギンを見たい。 あと、トラをもっと近くでじっくり見たいと思った。 ありがとうございました。
- ・各地域の観光地ガイドツアー
- ・水族館のツアー
- ・動物園をまた来年もやってほしい。
- ・水族館 わくわく美術展
- ・動物園、水族館の生き物の夜の様子、バックヤード
- ・男鹿水族館、スポーツ観戦など その場に行けない生徒たちがリアルタイムで見たいもの

- ・伊勢堂岱遺跡、御所の弥生っこ村、ふるさと村
- ・動物でもいいですけどスポーツ系もあっても良いと思います。男鹿水族館のも楽しみにしてます。
- ・実体験が感じられるもの
- ・えいがかんツワアー
- ・学習とは違う楽しい内容
- ・次回の水族館講座も楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・遊園地ツアー
- ・植物園を見てみたいです
- ・肢体不自由学級なので、このような zoom の会はとても良かったです。
- ・したくないです。
- ・水族館、美術館、コンサートなど
- ・男鹿水族館
- ・ゾウやキリンを見たかった

第2節 男鹿水族館 GAO オンラインガイドツアー

1 実施計画

(1)趣旨

病気療養や障害等により外出機会が少ない状況にある方々に対し、ICT 活用による社会体験や生涯学習の機会を通して社会参加の場作りに努める。また、地域にある社会資源の開発・開拓を行う。

(2)主催者・協力者

＜主催者＞

- ・秋田大学病児学習支援ボランティアサークル（秋田県秋田市手形学園町 1-1）

＜協力者＞

- ・男鹿水族館 GAO（秋田県秋田県男鹿市戸賀塩浜）
- ・一般財団法人秋田県教育関係職員互助会（秋田県秋田県秋田市山王三丁目 1-1）

(3)内容

①令和6年9月25日（水）10:30-11:30

男鹿水族館のスタッフが、館内の主な生物の生態について解説し、コーナーごとに質問を受け付けて回答する。

(4)ライブ配信先

- ・秋田県内の特別支援学校、病弱・身体虚弱特別支援学級等
- ・秋田県内の障害福祉サービス事業所
- ・一般財団法人ニューメディア開発協会が支援してきた全国の特別支援学校26校他

(5)本イベントのポイント

①社会教育施設のガイドツアーにより、学齢児にとっては、教科等の学習や総合的な学習の時間への発展が期待される。また、学校卒業後の方にとっては生涯学習の推進が期待される。

②ICT を活用することにより、一方的な映像配信でなく関係者や参加者同士の交流ができるようにする。

(6) システム

水族館に秋田大学ボランティアサークルスタッフ2名を派遣した。配信は男鹿水族館スタッフがタブレット PC を使って行った。オペレーションは秋田大学内で筆者が行った。

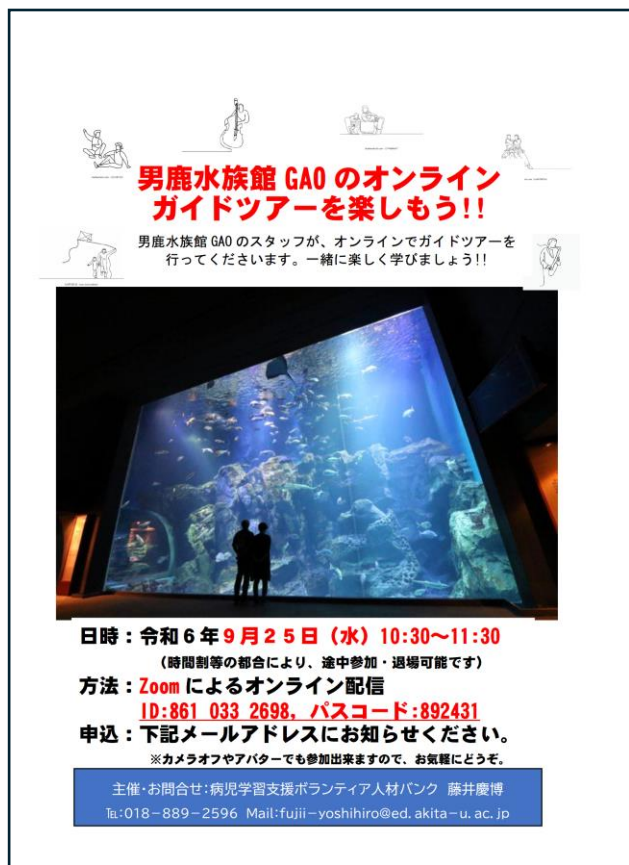


図 7 配布したチラシ

2 実践の様子



男鹿水族館のガイド役の職員



秋田大学ボランティアサークルのスタッフ



院内学級から参加していた児童と教員



人気者のホッキョクグマ 豪太

参加者数は、児童生徒 107 人、教職員 91 人、総計 208 人であった。内訳を以下に記す。

【秋田県内の学校】計 4 校 児童生徒 47 人 職員 27 人

【秋田県内の病院】計 2 施設 子ども 8 人 職員 11 人

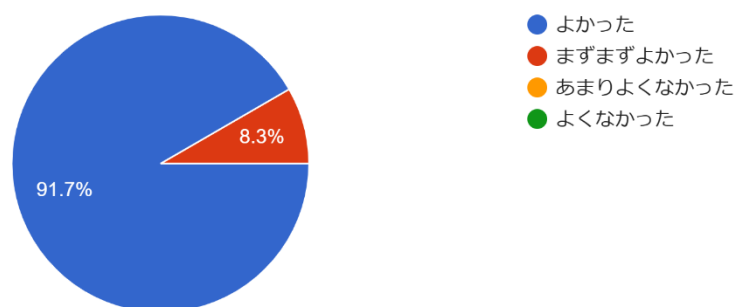
【秋田県外の学校】計 5 校 児童生徒 52 人 職員 51 人

【その他】計 1 施設 職員 2 人

3 参加者の感想（アンケートより）

Q1 講座（こうざ）は、よかったですか。

36 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。35 件の回答

- ・生き物がよく見えた
- ・ペンギンが見れた。
- ・水族館の中をリアルタイムで見れた
- ・実際の水槽をみられたこと。質問をうけていただいたこと
- ・児童の反応が良かったです。
- ・食事シーンが見れたところ
- ・普段、行けない水族館のことが知れてよかった。
- ・アップにしてくれたこと
- ・ゆっくりと学校で見ることができた。
- ・距離があって行くことが難しい男鹿水族館にオンラインを通して観ることができたこと。また、子どもたちが水族館の生き物に興味をもてたこと。
- ・シロクマが魚を食べているのを初めて見たのでうれしかったです。
- ・説明がわかりやすい
- ・贅沢な要望で・すが、途中でクイズやバックヤード見学が入るとなおいと思います、
- ・水族館が好きだから
- ・チンアナゴ
- ・普段見れない魚たちを見られたので良かった。
- ・わかりやすい説明でした。
- ・わかりやすい画像だった。
- ・くまとあざらしとペンギンがみれてたのしかった
- ・水族館に行く事が難しいのでこのような機会はありがたい。

- ・お話がわかりやすかった
- ・おおきなすいそうがすごかった
- ・学校でゆっくり視聴できたこと
- ・学校でゆっくり見られてよかった
- ・生き物がよく見えて児童が喜んでいて
- ・いろんなことがわかった
- ・白くまが見れたこと。
- ・児童の様子を見ながらゆっくり視聴できた。
- ・質問にすぐ答えてくれたところ
- ・北極熊が鯖を食べているところ
- ・シロクマの食事やウミガメなど、水族館の様子に満面の笑顔で大興奮の生徒でした。なかなか行けない場所なので、間近で見ることができてとてもうれしい様子でした。本当によかったです。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。1 件の回答

- ・詳しく生態を説明してくれたから
- ※上記回答は、肯定的な評価と考えられるが、当該回答欄に記されていたのでそのまま掲載した。

Q3 あなたは、どのような講座（こうざ）があれば参加（さんか）したいですか。教（おし）えてください。18 件の回答

- ・動物園
- ・ケーキやお菓子屋さんのお店に製品が並ぶまで
- ・音楽。ナマハゲ太鼓とか。
- ・秋田の文化を体験できるような講座
- ・動物園も楽しかったので、動物園や水族館のまだ見ていない生き物をみたいです
- ・季節で生き物の様子が違うと思うので、季節ごとに動物園や水族館のツアーをしてほしい。植物園も説明つきなら楽しめる子どももいると思います。
- ・ドローン視線見慣れた風景を見てみたい
- ・クラゲさんをゆっくりみたいです。
- ・また、水族館が見たいです。
- ・普段行けない場所（北海道などの県外）、ディズニーランドなどがあれば見てみたいです
- ・クラゲがゆっくりみたい。 ホッキョクグマのももちゃんが見たかった。
- ・動物園、博物館、美術館です。
- ・動物園や博物館
- ・水族館のガイドツアーにまた参加したい。
- ・動物園とか博物館、美術館も
- ・文鳥について
- ・動物園や水族館パート2 自然散策(紅葉の谷川や野鳥の観察等)

4 考察

- ・今回、依頼した大森山動物園、男鹿水族館の2施設はいずれも快諾のうえ、全面的に協力して下さった。ここに記して感謝申し上げたい。大勢の来場者を誇る両施設ではあるが、病気療養等の児童生徒の存在を認識していただく機会となったことと、ICTを活用し配信するという新たな施設活用法の

有用性を共有できたことは貴重であった。

- この実践をモデルとし、社会にある様々な社会資源を教育や生涯学習に活用することが期待できる。
- 動物園では屋外での配信のため、風切り音対策であったり、手前の柵にピントが合い動物にピントが合わなくなったりするなどの課題が、水族館では水槽にピントが合うなどの課題が見つかった。また、両施設ともエリアごとの移動を伴う施設であるため、移動中のカメラ酔い防止策などの工夫も学ぶことができた。今後の充実に向けて、検討課題や対応策を整理していきたい。

第Ⅲ章 ICT 活用による障害者の生涯学習推進の取組

第1節 背景

1 障害者の生涯学習推進に関する動向

近年、障害者の生涯学習推進の機運が国内外を問わず高まってきている。

2006年に採択された「障害者の権利に関する条約」第24条において、障害者に生涯学習の機会が与えられ、そのための合理的配慮の提供を確保することが明記された（外務省，2024）。また、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」（SDGs）のグローバル目標の一つとして、すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することが示された。

国内に目を向けると、障害者基本法に基づく障害者基本計画において、教育、文化芸術活動・スポーツに関する基本的考え方や施策について盛り込まれている。

文部科学省においても、障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支援するための取組が開始されることとなり、2017年4月には「特別支援教育の生涯学習化に向けて」と題する大臣メッセージが出され、2018年3月に策定された第4次障害者基本計画においては「生涯を通じた多様な学習活動の充実」が盛り込まれ、障害者の学校卒業後における学びを支援し、地域や社会への参加を促進することで、共生社会の実現につなげる旨が明確に位置付けられた。

このような状況下、障害の有無にかかわらず、一人一人が生涯にわたり学びを通じてその能力を維持向上し続けるとともに、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かしつつ共に生きることのできる「共生社会」の実現を目指し、国は地方公共団体や学校、関係団体との連携も図りながら取組を推進する必要性が提起された（学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議，2019）。

2 障害者の生涯学習に関する現状と課題

文部科学省は2018年度に「学校卒業後の学習活動に関する障害者本人等アンケート調査」を実施した。結果、生涯学習の機会の充実について「重要である」とする者が8割に上る一方、学習の場やプログラムが身近に「ある」と感じている者の割合は3割程度に留まっていた。また、生涯学習に関する主な課題として、一緒に学ぶ仲間の不足、費用負担、社会の理解不足などがあげられていた。

このように、障害者の生涯学習は徐々に推進されてきているものの、携わる人や組織の整備はいまだ不十分であり、学びの場やプログラムが不足している状況を踏まえ、学びの場づくり、障害に関する理解促進、取組を推進するための方策の必要性が提起された（学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議，2019）。自治体レベルの調査においても、障害者の生涯学習に関して、学ぶ場や情報、移動手段、支援者の確保など具体的な課題が報告されている（秋田県生涯学習センター，2021）。

3 ICT 活用による障害者の生涯学習推進

これまで概括してきた障害者の生涯学習推進に関する課題を解決する方策の一つとして、ICTを活用し、障害福祉サービス事業所をサテライトとして生涯学習講座を提供する方策を構想した。社会のデジタル化が進展している状況下、生涯学習講座をオンラインで配信することにより、障害者が居住地で講座を受講することが可能になるとともに、講師の選出も容易になる。同時に多くの障害者が受講でき、交流や新たなコミュニティの創出も期待される。

本章は、筆者が所属している秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアムが行った、「令和6年度 障害のある方の生涯学習講座」の実践報告である。

第2節 実施計画及び状況

1 趣旨

ICTの活用により、障害福祉サービス事業所をサテライトにして生涯学習講座を配信することをもって、障害のある方の生涯学習の推進に資する。

2 主催者

秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアム

※秋田青少年・障害者問題調査研究所（社会福祉法人秋田福祉協会内に設置）が、令和5年度に行った「障害のある方の生涯学習推進」に関する研究結果に基づき、同委員・事務局にて設置した団体。

3 講座の内容と実施状況

番号 分野	テーマ及び概要	講師	日時	実施状況
1 音楽	「おんがくでつながろう」 みんなの大学校（東京都）が開設している音楽授業を提供いただきます。音楽家やミュージシャンが登場し、音楽を通じたコミュニケーションで各地を繋いで交流します。	ピアノデュオ サーム ファシリテーター 引地達也 みんなの大学校学長	5月14日 (火) 11:00- 11:50	予定通り実施。 参加 4団体 51人
2 音楽	「南米の民俗音楽『フォルクローレ』にふれてみよう！」 南米アンデス地方の音楽「フォルクローレ」の演奏を皆さんにお届けします。珍しい南米の楽器紹介、楽器体験、クイズなども行います。大学生と楽しく交流しましょう！	秋田大学南米民族音楽サークル La-mia	6月22日 (土) 14:00- 15:00	小又の里から配信 参加 4団体 48人
3 消費者学習	「詐欺に騙されないようにしよう！」 秋田臨港警察署の署員の方より、特殊詐欺について分かり易く解説頂き、被害に合わないために気を付けることを学びます。	伊藤智行 秋田臨港警察署生活安全課 警部補	7月17日 (水) 10:00- 11:00	予定通り実施。 参加 2団体 17人 ※広島から参加有
4 ものづくり	「カラカラ、タカラバコ」 お菓子の空箱や使わなくなった箱をつかって、自分だけの素敵な宝箱をつくります。こっそりとそのまましまっておくもよし、大切なものを入れて飾るもよし、作り方も使い方も	林栄美子 秋田県立視覚支援学校 教諭	8月8日 (木) 10:30- 11:30	予定通り実施。 参加 6団体 35人

	あなた次第です！！			
5 コミ ュニ ケー ショ ン	「二・三人で楽しめる かんたんゲ ーム」 友だちや家族と一緒に盛り上がるケ ームを紹介します。 準備をしなくても たのしくあそべ るゲームばかりです。	片岡淑人 小坂町立小坂小学校 教頭	9月14日 (土) 10:30- 11:30	配信元施設がコロ ナ対応のため、 R7.2.1に延期。 その後、開催間際 になり、再度コロ ナ集団感染が発生 したため中止
6 社会 見学	「大森山動物園ガイドツアー」 大森山動物園のスタッフの（オンラ イン）解説付きで園内を見学してみ ませんか。	大森山動物園スタッ フ	10月15日 (火)10:30- 11:30	予定通り実施。 参加 22団体、226人 県内外の特別支援 学校参加
7 美術	「みんなのキンビ」プロジェクト ーオリジナルスタンプをつくらうー スチレンボードを使ってオリジナル スタンプをつくります。ポンと押す だけでかわいいカードが完成しま す。	北島珠水 秋田県立近代美術館 学芸員	11月27日 (水) 13:30- 14:30	「墨絵に挑戦」に 内容を変更して実 施 参加 3団体、19人
8 スポ ーツ	「簡単ストレッチ&トレーニング」 いつでも、どこでも、誰とでも、気 軽にできます。毎日ちょっとずつの 積み重ねで、運動不足を解消しよ う。	佐藤慶子 一般社団法人秋田県 障害者スポーツ協会 障害者スポーツ推進 員	12月3日 (火)10:30- 11:30	予定通り実施。 参加 3団体 23人
9 健康 安全	「楽しんで学ぶ防災～ポリ袋で焼き そばづくりに挑戦！～」 ポリ袋を使った調理などの体験を通 し、日常に防災を取り入れる「新し い防災」を楽しく学びます。	秋田県生涯学習セン ター	1月22日 (水) 10:30- 11:30	予定通り実施。 参加 3団体 37人
10 美術	「みんなのキンビ」プロジェクト ー「みんなのキンビ展」の鑑賞ー 「みんなのキンビ展」の見所を紹介 いたします。	北島珠水 秋田県立近代美術館 学芸員	2月12日 (水)13:30- 14:30	予定通り実施。 参加 2団体 11人

令和6年度 秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアム

障害のある方の 生涯学習講座

オンラインで生涯学習講座を配信
新しい学びに出会おう！

講座テーマと日時は裏面をご覧ください

受講料 無料 準備物は各施設・個人にお願ひしますが、無理のない範囲で対応ください。

開催方法 オンライン(ZOOM)です。
参加者には後日ミーティングID及びパスワードをお知らせいたします。

会場 各施設やご家庭から受講していただけます。

申込方法 Googleフォーム(<https://x.gd/YCk02>)よりお申し込みください。
申込期限は各講座の1週間前の17:00までといたします。

お問い合わせ 秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアム事務局 藤井 慶博
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学内
TEL 018-889-2596 E-mail fujii-yoshihiro@ed.akita-u.ac.jp
※不在のことがあるのでメールが確実です。

QRコード

自らの体験や得意分野を、障害のある方の生涯学習のためにご提供くださる方を募集します。

①基本的にオンラインで提供できる内容とし、オンライン配信が難しい場合は当方から支援いたします。
②開催日時等については、主催者と協議の上決定いたします。
③講師謝金は無料でお願ひします。準備物の費用は予算の範囲内で準備いたします。
④お申込み・お問合せについては、メールにてご連絡ください。なお内容によっては、配信が難しい場合がありますので予めご了承願ひます。

このチラシは「秋田市地域づくり交付金」の助成により作成しました。

図7 周知用のチラシ

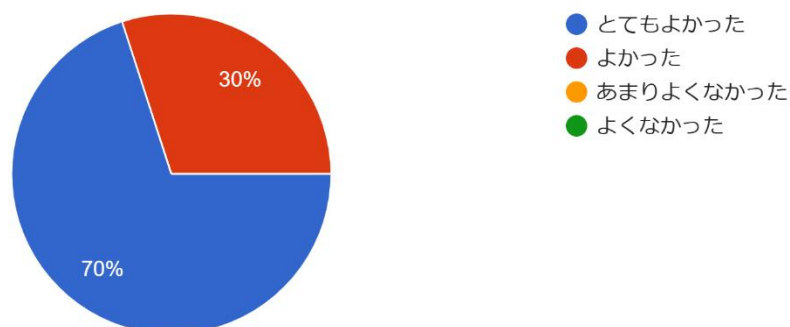
令和6年度 障害のある方の生涯学習講座		
希望する講座を選んで受講いただけます(1講座から受講可能)。		
講座分野と日時	テーマ及び概要	準備物等
音楽 5月14日(火) 11:00～11:50	『おながくてつながろう』 講師:ピアノデュオ サム、ファシリテーター:引地達也(みんなの大学校学長) みんなの大学校(東京都)が開設している音楽療法を提供いたします。音楽家やミュージシャンが登場し、音楽を通してコミュニケーションで交流します。	なし
音楽 6月22日(土) 14:00～15:00	『南米の民俗音楽「folklore」にふれてみよう!』 講師:秋田大学南米音楽サークル La-mia 南米アンデス地方の音楽「folklore」の演奏を皆さんにお届けします。その他にも、楽しい南米の楽曲紹介、楽器体験、ダンスなども行います。お気軽に参加してください。	なし
消費者学習 7月17日(水) 10:00～11:00	『詐欺に騙されないようにしよう!』 講師:秋田県消費者教育員 秋田県消費者教育員の方より、特設計画について分かりやすく解説講義、被害に合わないために気を付けることを学びます。	なし
ものづくり 8月8日(木) 10:30～11:30	『カラカラ、タカラバコ』 講師:林栄美子(秋田県立視覚支援学校 教諭) お菓子の記憶や変わってきた姿をつかって、自分だけの素敵な宝庫をつくりまわす。こっそりとそのままだまぐおくのもよし、大切なものをいれて飾るのもよし、作り方も楽しいおもな宝庫です!!	使わなくなった箱(お菓子やほかの容器など)、色紙や色み紙、種子のり、筆(シール、マジック等適宜)
コミュニケーション 9月14日(土) 10:30～11:30	『二・三人で楽しめる かんたんゲーム』 講師:片岡親人(小坂町立小坂小学校 教諭) 友だちや家族と一緒に盛り上がるゲームを紹介します。準備をしなくてもたのしくあそべるゲームばかりです。	なし
社会見学 10月15日(火) 10:30～11:30	『大森山動物園ガイドツアー』 講師:大森山動物園スタッフ 大森山動物園のスタッフの(オンライン)解説付きで園内を見学していただきます。	なし
美術 11月27日(水) 13:30～14:30	『みんなのキンビ プロジェクト』 ～オリジナルスタンプをつくろう～ 講師:北島珠水(秋田県立近代美術館学芸員) スタンプボードを使ってオリジナルスタンプをつくります。ポンと押すだけでかわいいカードが完成します。	スタンプボード(食品トレー)、糊、スタンプ台(100円均一で購入できます)、プラスチックカップ、カード(印刷用で、A4サイズ推奨)
スポーツ 12月3日(火) 10:30～11:30	『簡単ストレッチ&トレーニング』 講師:佐藤慶子(一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 障害者スポーツ推進員) いつでも、どこでも、誰とでも、気軽にできます。毎日ちょっとずつの積み重ねで、運動不足を解消しよう。室内履 方法について、参加資料を参照します。	○フェイスタオル1本 ○500ml程度のペットボトル2本(中身の入ったもの)
健康安全 1月22日(水) 10:30～11:30	『楽しんで学ぶ防災』 ～ポリ袋で焼きそばづくりに挑戦!～ 講師:秋田県生涯学習センター ポリ袋を使った調理などの体験を通して、自然に防災を取り入れる「新しい防災」を楽しく学びます。	○大きめの鍋・皿 ○カセットコンロ ○乾燥剤の袋 ○焼きそば ○カセット鍋 ○シーター
美術 2月12日(水) 13:30～14:30	『みんなのキンビ プロジェクト』 ～「みんなのキンビ展」の鑑賞～ 講師:北島珠水(秋田県立近代美術館学芸員) 「みんなのキンビ展」の場所を紹介します。	ご希望の施設には観覧券(招待券)をお送りいたします。

4 参加者の感想（アンケートより）

講座1（音楽）「おんがくでつながろう」

Q1 講座（こうざ）は、よかったですか。

20 件の回答



Q2 Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。0 件の回答

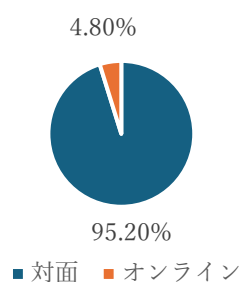
この質問にはまだ回答がありません。

講座2（音楽）「南米の民族音楽『フォルクローレ』にふれてみよう」

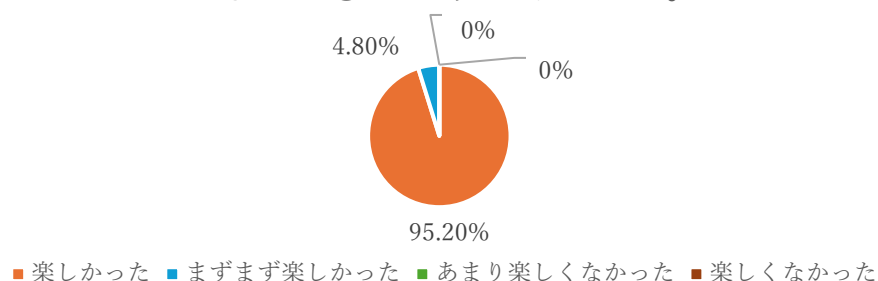
※学生の調査研究と抱合わせで実施したため、他の講座アンケートと質問項目等が異なる。

（利用者、オンライン参加者向けのアンケート） 回答者 42名

①あなたは今回、対面とオンライン（zoom）のどちらで参加しましたか。



②今回の交流会はいかがでしたか。あてはまるものに○をつけてください。



③フォルクローレの音楽を、これまでに聴いたことがありましたか。今回初めて聴きましたか。

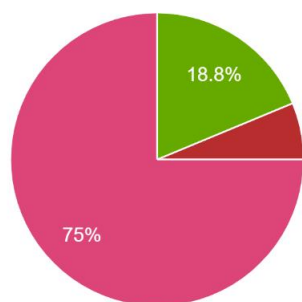


■ これまでに聴いたことがあった ■ 今回初めて聴いた

講座3（消費者教育）「詐欺に騙されないようにしよう」

あなたの所属（しよぞく）をお知らせください。

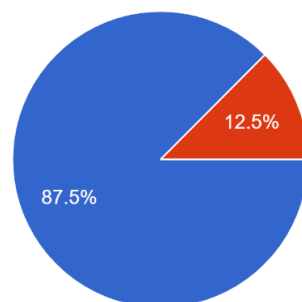
16 件の回答



● 小学生
● 中学生
● 高校生
● 特別支援学校生（とくべつしえんがっこうせい）
● 大学生
● 教員
● 施設利用者（しせつりようしゃ）
● 施設職員
● その他

Q1 今日（きょう）の講座（こうざ）は、よかったですか。

16 件の回答



● よかった
● まずまずよかった
● あまりよくなかった
● よくなかった

Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。16 件の回答

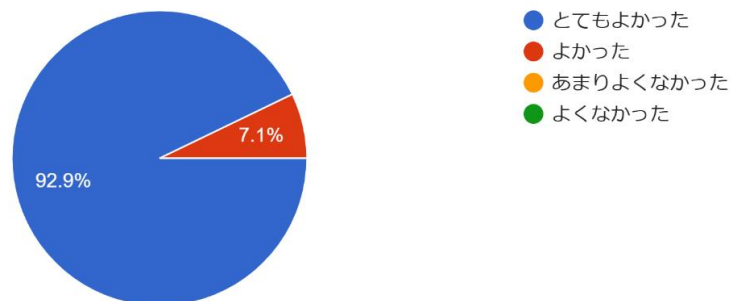
- ・詐欺は怖いと思いました。後でお母さんとお兄さんにお話したいと思いました。
- ・詐欺についてお話を聞きました。詐欺に合わないよう気をつけたいと思います。お話は少し難しかったけど、後で職員の方に説明してもらいました。
- ・変な電話があった時にどうやって気をつければ良いか分かりました。お金を渡さないように気をつけます。
- ・詐欺の実態について詳しくお話を頂き、利用者様に対しても注意喚起が図れたものと思います。
- ・利用者様にとって特殊詐欺はあまり身近ではなくニュースで耳にする程度でしたが、自宅へ外泊される方や、外出をされる方もおられ、今回の講座は注意喚起を行う上で大変参考となりました。実際に警察署の署員の方から直接講話を頂いたことでより実感が湧く内容であったと思います。
- ・詐欺に合わないよう気をつけたいと思います。
- ・警察の方の話が分かり易かったです。詐欺に合わないためにどうすればよいか分かりました。
- ・どんな詐欺があるのか良く分かりました。変な人に話しかけられたら気をつけたいと思います。
- ・詐欺に合わないために電話がかかってきても取らないようにしようと思いました。パソコンは使ったことにはないですが気を突きたいと思いました。
- ・秋田は詐欺が多いと思いました。帰省した時に変な電話があっても、誰かに相談したいと思います。
- ・私はお盆と正月とゴールデンウィークにお家へ帰るので、電話がかかってきたら気をつけたいと思いました。どうすれば詐欺に合わないか勉強になりました。
- ・ニュース等では見ていたのですが、直にお話を聞くことにより今後の勉強、学習になりました。簡単に人にお金を渡したらだめだと思いました。ロマンス詐欺は人に声をかけられても信用しないようにしたいと思いました。
- ・詐欺に騙されないようにするにはどうすればよいか勉強しました。警察の人の話が分かり易かったです。
- ・署員の方に分かり易く、絵を用いながらご説明いただきありがたかったです。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。0 件の回答
この質問にはまだ回答がありません。

講座4（ものづくり）「カラカラ、タカラバコ」

Q1 講座（こうざ）は、よかったですか。

14 件の回答

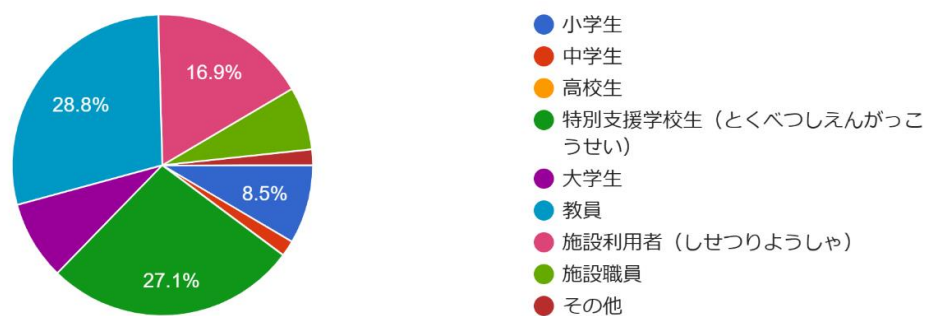


Q2 Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。0 件の回答
この質問にはまだ回答がありません。

講座6（社会見学）「大森山動物園ガイドツアー」

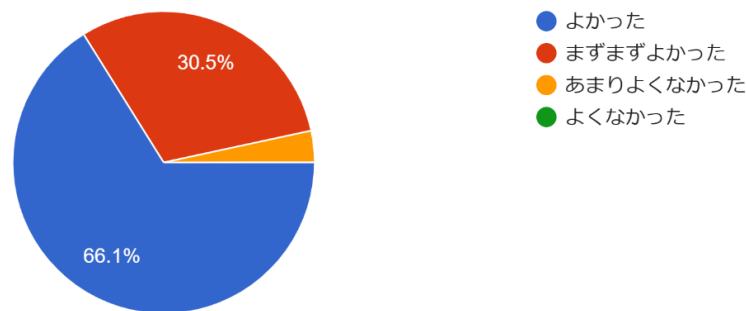
あなたの所属（しょぞく）をおしらせください。

59 件の回答



Q1 今日（きょう）の講座（こうざ）は、よかったですか。

59 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。56 件の回答

- ・キリンの首の骨が見れたこと
- ・児童生徒の質問コーナーを設けていただいたことで、ただの動画視聴ではなく、リアルタイムで観ていることを感じながらツアーに参加できた点が良かったです。
- ・オンラインであっても、普段見ることの出来ない動物たちを見る事ができたから。また動物の生態について知ることができたから。
- ・久しぶりに大森山の動物が見れたところがよかった。
- ・色んな動物がいた
- ・わおきつねざるがおもちゃにじゃれてたのがかわいかったです。
- ・キリンの骨
- ・たくさんの動物がみれてよかった
- ・詳しく説明していただき、とても興味深く見学できました。訪問生徒自宅からでしたので、保護者の方にも楽しんでいただけました。実際に動物園に行って説明を聞くことは難しいので、ゆっくり近くで見学できてよかったです。
- ・いろいろな質問に丁寧に答えてくださったのがとても良かったです。時間があつたらいろいろ聞いてみたかったです。生徒も興味をもって見ていました。
- ・キリンの飼育に関する準備や信頼関係の説明が素晴らしかったです
- ・動物が可愛かった
- ・いろいろな動物を見ることができて良かったです。質問にも丁寧に答えてくださって、たくさんのことが知れました。飼育員さんが直接説明してくださるのが、特別感があって良かったです。ありがとうございました。
- ・詳しい説明でした。
- ・きりんの世話の様子が見られてとても良かったです。
- ・施設にいながら様々な動物を見られたこと。
- ・動物を知れて良かったです
- ・説明があり、動物のことをたくさん知ることができた。質問にもすぐに答えてくださったことが良かった。
- ・入院していて外出の機会がなかなかない児童が、映像を通して動物園ガイドツアーに参加することができたところ

- ・キリンのしっぽがかわいくてよかった
- ・普段行けない方も動物園の様子を見る事ができた。
- ・説明があり詳しく動物の事を知ることができた。リモートの経験もできました。とてもいい経験でした。
- ・終盤での途中参加でしたが、大人でも知らない専門的な動物の話が聞けてすごく良かったです。
- ・前回とはまた違う動物たちの詳しい話を聞けて、とてもおもしろかったです。イグアナ達の個性の違いが新鮮で、誰かに話したくなりました。
- ・動物園の普段知らない部分がしれたので、利用者に話してあげたら喜ぶと思います。
- ・餌やりが見れたところがよかった
- ・生き物の話がよかった。 ・質問に答えてもらえたこと。
- ・キリンとかを見れたところ。
- ・実際に園の方から動物園の案内をしてもらえ、参考になった。
- ・動物のいろんな説明がためになった
- ・直にスタッフの方と質問のやりとりをしながら、また他校の生徒の顔を見ながら参加できたので良かったです。動物をととても近くで観れたので、子どもたちも盛り上がっていました。
- ・動物についてのいろんな質問が聞けたこと
- ・丁寧な説明でわかりやすかったです。子ども達が、知らない情報を得ることができました。
- ・飼育員さんが詳しく説明してくれたところ
- ・動物園の飼育の裏側や日頃の健康維持の仕方、特徴などを知ることができ、生徒が興味を持って見ていました。
- ・キリンの骨を見たこと
- ・普段知らない事の説明もありとてもわかりやすかったです。 楽しかったです。
- ・いろんな動物が見れて楽しかった。
- ・キリンとサルが見れたこと
- ・動物について初めて知ることがたくさんあったので知ることができて良かったです。 オンラインでのツアーは見たことがなかったのですが、直接現地に行けない人たちにとっては良い思い出になると思いました。
- ・きりんとかめがみれてよかった。
- ・動物の説明がわかりやすかった。
- ・いろんな知らない動物がくわしく知れてよかった。
- ・質疑応答を通してみんなと一緒に学んでいる感じがして良かったです
- ・実際動く動物を見ながら解説していただいて良かったです。
- ・動物が見れたところがよかった
- ・質問のやりとりができたのがよかった。
- ・職員の方のお話がとても面白かったです。 何度か動物園に行ったことがありますが、観ることがほとんどで、動物に関するお話を聞くことはあまりありませんでした。 なので今回、いろんなお話を聞くことが出来てとても楽しかったです。
- ・実際に間近で動物を見たり説明を聞くことが出来て良かったです。 普段動物を見る視点とは違う視点で説明を受けたことでもっと知りたいと思いました。
- ・病院からの参加でしたので、カメラ、マイク NG 一方通行で楽しめるか不安もありましたが、とてもにこにこの笑顔で時間いっぱい楽しめました。やはり動画視聴とは異なり、一方通行ではない雰囲気を感じ、楽しめたのだと思います。
- ・動物園を病室で見れた
- ・動物を見ることが出来てよかった。

- ・生徒の質問に丁寧に答えていただき、有難かったです。
- ・普段見ることができない、キリンの訓練を見ることができて、よかったと思います。
- ・移動の時に、カメラがオフになっていたので、酔わずに最後まで参加できました。
- ・始めは、画質が悪くて動物があまり鮮明に映りませんでしたが、アップになると見やすかったです。
- ・たくさんの動物が見れて良かったです。
- ・動物にもっと動きがあれば、知的に障がいがあってもみてて楽しめると思いました！くじゃくは首が動いたり歩いたりしていたので喜んで見ていました！
- ・きりんのつめきりがみれてよかった。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。3件の回答

- ・超重度児で、ベッド生活の児童には、鳴き声や生態をもっと見せたかったが、質問に答えて案内するやり方はレベルが高かった。聴覚も乏しい児童もいたので。
- ・小学生もいるからしょうがないけどありきたりすぎる
- ・ちょっと画像が良くなかったと思います。

講座7（美術）「みんなのキンビプロジェクト ー墨絵に挑戦ー」

あなたの所属（しよぞく）をおしらせください。

6件の回答



Q1 今日（きょう）の講座（こうざ）は、良かったですか。

6件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。6 件の回答

- ・ 墨で絵を描くのが楽しかったです。だるまの絵の紹介が面白かったです。
- ・ 絵を描くのが楽しかったです。
- ・ 普段使用しない墨や筆を使ったところ。慣れないながらもとても楽しんでいた。
- ・ 普段美術館等に出向く機会が少ない利用者様が殆どですので、今回のような講座で絵画等を鑑賞するのは良い機会であると感じました。また、墨絵にも挑戦させていただきましたが、利用者様も悪戦苦闘しながら楽しまれておりました。
- ・ 墨を使うのが難しかったけど、絵を描くのが楽しかったです。
- ・ 自分で絵を描くのが楽しかったです。少し難しかったです。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。0 件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

講座8（スポーツ）「簡単ストレッチ＆トレーニング」

あなたの所属（しよぞく）をおしらせください。

13 件の回答



Q1 今日（きょう）の講座（こうざ）は、よかったですか。

13 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。13 件の回答

- ・体操が難しかったけど楽しかったです。
- ・タオルを使って色んな体操をしたことが面白かったです。いい運動になりました。
- ・みんなで体操ができて楽しかったです。
- ・簡単な動作で利用者さんにもわかりやすい動きだったことがとても良かったです。普段から取り入れて続けていけそうな内容でした。講師の先生も言葉が聞きとりやすく、分かりやすい言葉で伝えて下さり大変良かったです。ありがとうございました。
- ・手足の運動ができてよかったです。自分の健康のためになりました。
- ・運動不足になりがちな利用者さんと一緒に簡単に出来るストレッチを学べて良かったし、自分自身の体の凝りにも効いた。
- ・冬は外に出れないのでいい運動ができました。
- ・身体を動かしてよかった。
- ・参加されたご利用者様も無理なく楽しんでいただけたように思いました。本日は車椅子のご利用者様も参加させていただきましたが、日頃のリハビリ訓練にも応用できそうな内容であったためぜひ参考にさせていただきます。また、冬場の運動不足解消にも活用できそうな内容でした。
- ・体操が楽しかったです。
- ・楽しかった。
- ・タオルやペットボトルみたいに自分の物を簡単に使えて体操ができたこと。
- ・利用者様も楽しんでおりました。今後施設の活動でも使える内容だと思ったので良いと思いました。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。0 件の回答
この質問にはまだ回答がありません。

講座9（健康・安全）「楽しんで学ぶ防災～ポリ袋で焼きそばづくりに挑戦！」

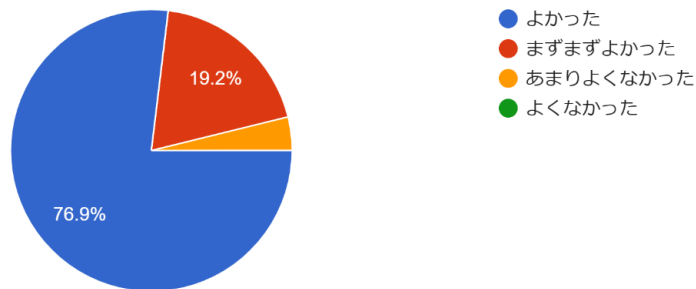
あなたの所属（しよぞく）をおしらせください。

26 件の回答



Q1 今日（きょう）の講座（こうぎ）は、よかったですか。

26 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。26 件の回答

- ・ zoom でやりとりしながらすすめられたこと、茹で時間の防災クイズ
- ・ とても分かりやすくて勉強になりました。
- ・ やっぱり油で炒めたほうがおいしいんじゃないかな、とおもいましたがおいしかったです
- ・ 手軽に調理ができ、待ち時間で防災の勉強もできて良かったです。
- ・ 災害時にやくにたつこうぎだったと思いました
- ・ 今回の講座を受けて、袋でも作れるんだなと思いました。
- ・ 防災について知ることができたことに加えて、楽しく取り組めたことが良かったと思います。
- ・ 普段から学習しているテーマをより専門の外部の先生から学べることができました。
- ・ 焼きそば焼かないほう美味しいです
- ・ 焼かなくても焼きそばは作れることを知ることができて良かったです。焼かない焼きそばは美味しかったです。
- ・ 防災関係を学べたこと
- ・ 学校でやることができて良かった
- ・ ふくろを使って料理ができた
- ・ 説明がわかりやすくて、美味しく出来ました。
- ・ 簡単でよかった
- ・ 説明がわかりやすかったです。また、待っている間の防災クイズも楽しかったです。はじめのほうでやや進行が早めで利用者が遅れをとった部分がありましたが、皆楽しんでいました。
- ・ リモートでしたが、声がよく聞こえた。焼きそば美味しかった。
- ・ 講座の時間も丁度良く、参加された利用者様も普段調理を楽しむ機会も少ないため、防災の学習も含め調理を経験出来楽しめた様子でした。
- ・ 体験しながら学ぶことができたこと
- ・ 袋に焼きそばを入れました。美味しかったです
- ・ ちゃんと火が通せて良かったです。
- ・ 質問内容は書けたから
- ・ 比較的に簡単でした。あと、味は美味しかったです。
- ・ 友達と一緒に焼きそばを作って美味しかったです
- ・ 焼きそば美味しかったです。
- ・ 分かりやすかったです。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよくなかったか、教（おし）えてください。1 件の回答

・聞きたい質問を自分から聞けなかった

講座 10（美術）「みんなのキンビプロジェクト —みんなのキンビ展の鑑賞—」

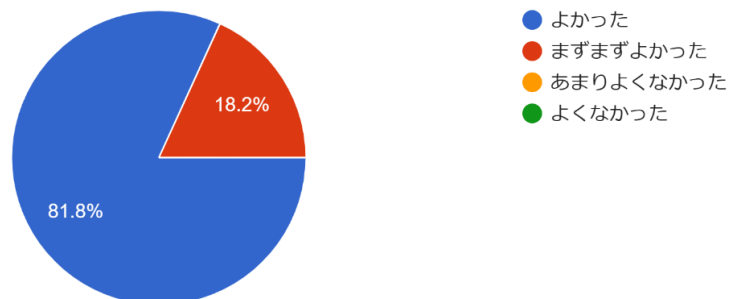
あなたの所属（しよぞく）をおしらせください。

11 件の回答



Q1 今日（きょう）の講座（こうざ）は、よかったですか。

11 件の回答



Q2-① Q1で「よかった」「まずまずよかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようなところがよかったか、教（おし）えてください。11 件の回答

- ・女の子の絵（猫耳）がかわいかったです。カバの展示が面白かったです。また見たいです。女の先生が優しかったです。
- ・みんなと楽しくキンビ展を鑑賞した事
- ・イラストをつうじて、みんなと出会えたことです。
- ・参加型の講習なので、利用者さんが時間いっぱい楽しんで参加できた。行かずして現場の雰囲気が伝わってきたので、行ってみたくなった。
- ・絵をかくのが楽しかったです。色んな作品が見れて楽しかったです。
- ・絵を描いたのが楽しかったです。
- ・自分で好きな絵を自由に描けたところ。

- ・絵をかいたり、作品を鑑賞したところ。
- ・講師の方と利用者とのコミュニケーションをとりながら進められたところが良かった。
- ・普段美術館等に出向く機会が少ないため、芸術の分野に親しむことができたこと嬉しく思います。また、実際に作成した絵画を展示して下さることで利用者様も喜ばれておりました。
- ・作品の説明が楽しかったです。絵をかくのも面白かったです。

Q2-② Q1で「あまりよくなかった」「よくなかった」とこたえた方（かた）におききします。どのようところがよくなかったか、教（おし）えてください。1 件の回答

- ・（「よかった」と書きましたが）映像が止まった部分が残念でした。

4 考察

- ・障害のある当事者が個人として生涯学習に取り組むには、移動手段や介助者の確保等の課題が指摘されている中、ICTの活用により障害福祉サービス事業所をサテライトにして実施する方法は、時間・空間のバリアの軽減や講師の確保、新たな人々との交流が促進されるなど、障害のある方の生涯学習（学校卒業後の学び）の推進に資すると考えた。
- ・障害者の生涯学習の推進が、秋田はもとより全国的な課題となっている。このような中、全9講座に467人の参加が得られた。講座によっては200人を超える参加者を得ることができ、教育委員会等の生涯学習担当者が参加する講座も複数あった。また、チラシをもとに様々な機会に周知活動を行うことができた。これらのことから障害者の生涯学習にかかる当事者・保護者・関係者の意識醸成に微力ながら寄与できたと考えた。
- ・ICTは手軽さというメリットはあるものの、映像や音声の質が臨場感や没入感に大きく影響すると感じた。より質の高い映像や音声の提供方法の検討が求められる。そのため、本事業で依頼したオンラインプロデューサーの機器や技能が有効であった。将来的には自走できるよう配信マニュアル等の整備が必要である。
- ・今年度は、事務局担当の知り合い等身近な人材に講師を依頼したが、地域には障害者の生涯学習の資源がたくさんあることを実感した。地域共生社会の理念に向けて、普段障害者と関わりの少ない新たな講師やボランティアの参画、地域資源の活用などに留意したい。

第Ⅳ章 病気の子どもの教育支援フォーラム特別企画「ICT を活用した学習支援コーナー」

1 取組の概要

本章では、筆者が主宰する「病児学習支援ボランティア人材バンク」が毎年開催している「病気の子どもの教育支援フォーラム」の特別企画として行った「ICT を活用した学習支援体験コーナー」の内容と参加者の感想アンケートを報告する。

体験コーナーでは、一般財団法人ニューメディア開発協会によるアバターロボットの実機デモと、秋田県教育庁生涯学習課・秋田県立近代美術館が取り組んでいるメタバースキンビを紹介した。

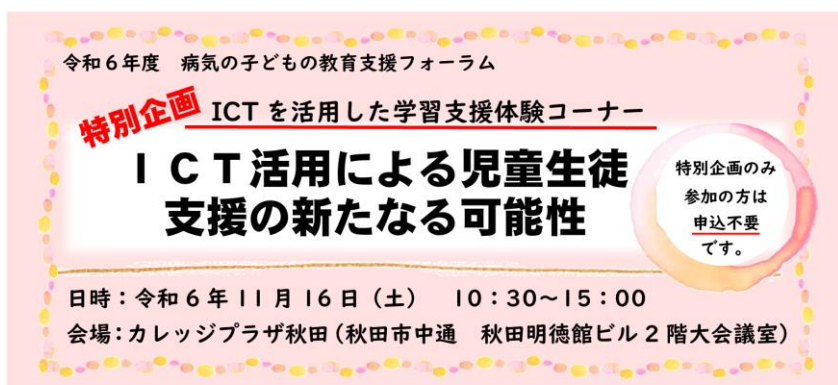


図8 周知用のチラシ



2 参加者の感想（アンケートより）

ICT(アバターロボット、メタバース等)を活用した学習支援体験コーナーについての感想がございましたら、お書きください。8 件の回答

・ためになりました。

- ・Zoom 参加だったので、紹介の場面のみでしたが、直接触れてみたいと思いました。
- ・kubi を利用してみて、首の上下左右の角度を変えたりスタンプやアバターでリアクションがとれたり学習が充実するような工夫がされていることを実感した。メタバースも体験してみて、美術作品を間近で見ることができ作品の質感を味わうことができて楽しかった。
- ・県立美術館の中の作品をまじまじと見たり解説を聞いたりしながらまわることが出来るのは実際に足を運んだ時にできることと一緒にあるので、病弱でなかなか外に出れない子にとってはとても有効であると感じました。
- ・初めてアバターロボット等を体験して、これらの機器を使用することによってオンライン上で今まで以上の学習や体験をすることができると感じました。このような機器を使用する場面を広げて、さらに子どもたちが楽しく、自分に合った学習を行えるようにしていく必要があると思いました。
- ・新しい取組を知る機会になりました。学習の幅と可能性が広がります。
- ・美術館の見学を行ったんですけど、少し酔ってしまいやすく、面白い昨日だしすごい技術だと思ったんですが、酔わないような工夫や改善が必要かなと感じました。
- ・実際に体験出来て勉強になりました。
- ・ニューメディア開発協会の方の説明も丁寧で分かりやすかったです

3 考察

- ・参加者からは、概ね肯定的な評価をいただいた。特に新しい取組に対する評価が多く、今後の実装に弾みがつく意見が挙げられた。これらコンテンツを用いることで「個別最適な学び」を更に充実させていくことを期待し、今後とも理解啓発の機会を設けていきたい。
- ・デジタルアーカイブの普及と併せて、外出機会の少なくなりがちな病気療養児や障害のある人の学びや経験を広げる取組に期待したい。

う

第Ⅳ章 総合考察

1 ICT 活用による交流イベント・生涯学習の取組の意義

(1) 児童生徒等にとっての意義

① 時間や空間の壁を超えた魅力ある経験

病気療養児や障害のある人は、移動の困難さや介助者の確保といった課題により外出機会が少なくならざるを得ない。今回のプロジェクト等の参加者アンケートから、ICT を活用したお祭りや社会教育施設の体験はこれらの課題を解消し、時間や空間の壁を越えて魅力ある経験をすることができることが示唆された。

② 国内外の人やモノ、文化との幅広い交流の実現

ICT を活用することにより、秋田県内はもとより国内外の人やモノとつながることが出来た。特に近年、お祭りには秋田県外の人や多くの外国人が訪れるようになり、ここでの交流は他地域・国の文化との幅広い交流の場としても有効であると考えられる。

③ 学びや暮らしを豊かにする伴走者としての価値発見

今回は Kubi というアバターを活用し、児童生徒らは遠隔操作により自ら見たいところを見られる体験ができた。配信側から提供される映像を見るだけでなく、自ら主体的に参画する経験により、ICT が自らの学びや暮らしを豊かにする伴走者としての価値を発見したといえよう。

(2) 教師・学生にとって

① ICT を活用した学びの価値・有効性の実感

社会のデジタル化、GIGA スクール構想により、学校における ICT 活用は急速に進んでいる。一方で、教員の経験やリテラシーの差が ICT 活用教育に大きく影響している実態も報告されている。今回のプロジェクトをはじめ、病気の子どもの教育支援フォーラムの特別企画「ICT を活用した学習支援体験コーナー」の企画等を通し、教員や学生ボランティアとして参加した学生にとって ICT を活用した学びの価値・有効性を実感していただく機会になったことが示唆された。

② 多様な方々（児童生徒・他地域の方々）と交流できる対応力

学校の児童生徒の多様化が指摘されている。学校教育の現場では、インクルーシブ教育の推進も含めて通常学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒への対応が喫緊の課題となっている。このような状況の下、多様な方々と交流する経験とそこで培った対応力は、将来の教育現場で役立つものと期待される。

③ 地域の様々な人々や多職種との連携の有用性を学ぶ機会

本プロジェクトの実施に当たっては様々な関係団体等の協力が必須である。これら団体との関係構築・協働経験は、今後の社会生活においても大いに役立つものと考えた。「チーム学校」という理念は、学校が抱える多様な課題解決のために生まれたが、多職種連携は課題解決のみならず学校における新たな価値の創造といった視点からも有用であることを学ぶ機会となった。

(3) 社会にとって

① 病気や障害等のある多様な人々の存在の認識

本プロジェクトを通して、協力機関や地域ボランティアの方々はもとより交流した多くの方々に、病気や障害のある児童生徒の存在を認識していただくことができた。併せて惜しめない協力をいただくこ

とも出来た。このような機会を通して、障害のある者と障害のない者との間の「無意識の遠慮や無意識の排除」といった空気感を転換していくことが期待されよう。

②合理的配慮の意識涵養

障害者差別解消法が改正され、令和6年4月から民間事業者においても合理的配慮の提供が法的義務となった。しかし、社会の認識はまだ高いとは言えない状況にある。本プロジェクトを継続することにより、社会における合理的配慮の意識涵養が期待される。

③学校教育・生涯学習と社会資源を繋ぐプラットフォーム

地域には、学校教育・生涯学習として活用が期待される社会資源は多く存在すると考えられる。しかし、社会では先述した通り、障害や病気の児童生徒に対する認識が低かったり、合理的配慮の意識が十分でなかったりすることにより、社会資源が有効に活用されていないといったケースが多いと考える。ICTは、社会資源を学校教育・生涯学習として有効活用するためのプラットフォームの機能が期待される。

④地域共生社会の形成

これまで述べてきたとおり、ICT活用による地域資源をテーマとした配信・交流プロジェクトは、関係機関や協力団体・ボランティア等様々な人々の協力のもと成し遂げられた。また、団体への報告の際には、今後の協力や新たな提案を申し出てくださいる団体がほとんどである。そこには障害の有無にかかわらず社会の中で全ての人を包摂するといった文脈が存在し、地域共生社会の形成にも少なからず影響をもたらすものとする。